

- | 特集 2013年セキュリティ産業の激変
- | 製品情報 LPR ナンバプレート認識
- | 直前情報 SECURITY SHOW 2013



世界で選ばれるNVR
第5世代VioStorの進化とは

Turn night into day!



FLIR Fシリーズ

FLIR PTシリーズ

防犯・監視向 赤外線サーマルカメラ

光を一切必要としないフリアーシステムズの赤外線サーマルカメラは、完全な暗闇、霧、煙の中でも鮮明な画像をとらえ、豊富なラインナップで幅広いニーズにお応えします。

- ・固定タイプ、パンチルトタイプ、各種レンズをご用意
- ・アナログだけでなく TCP/IP ネットワークにも対応 (ONVIF 対応)

詳細は弊社ホームページで

www.flir.com

フリアーシステムズジャパン株式会社
〒141-0021
東京都品川区上大崎2-13-17
目黒東急ビル5階
電話：03-6721-6648 FAX：03-6721-7946
e-mail：info@flir.jp
製品の仕様は予告なく変更されることがあります。
Copyright©2013 FLIR Systems.

掲載画像は製品の説明目的で使用しています。



国内産業ニュース	6
海外産業ニュース	10
読者の声	68

表紙解説

世界で選ばれるNVR	
第5世代VioStorの進化とは	4-5

特集

2013年、 セキュリティ産業の激動 14

製品特集

活発化するALPR/LPRの商業利用	40
--------------------	----

キーマンインタビュー

ジェネテック社ピエール・ラースCEO	50
--------------------	----

連載

指静脈認証	46
市場慧眼 よくわかるIPネットワーク	48

イベント・レポート

SECURITY SHOW事前情報	52
展示会、プライベートショー日程	60

導入事例

フリーアシステムズジャパン	62
---------------	----

新製品情報

タムロン	63
店舗プランニング	64
アクシスコミュニケーションズ	65

新製品欄

CCTV、入退管理、その他	66
---------------	----

広告主名(ABC順)	掲載ページ
アクセスコミュニケーションズ	3
BOSCH SECURITY SYSTEMS	13
DYNACOLOR	39
GENETEC	45
フィットデザインシステム	46
フリーアシステムズジャパン	表二
HIDグローバル	21
ジャバテル	47
MESSE FRANKFURT NEW ERA MEDIA	61、67、表三
MOBOTIX JAPAN	57
ネットカムシステムズ	55、表四
日本経済新聞社	59
R.O.D	表一、表紙解説、56
ソニー	11
サンシステムサプライ	54
店舗プランニング	7、9
VIVOTEK INC	34-35(センター見開き)
ユニバーサルコンピュータ研究所	58

次号案内 2013年5/6月号(5月11日発行予定)

特集

警察への導入とその運用

製品特集

IPネットワークカメラ

連載

市場慧眼、指静脈認証

(誌面の都合上、変更になることがあります)

a&s JAPAN ©ASJ社 2013年3-4月号 No.33
The Professional Magazine Providing Total Security Solutions

発行人 小森堅司 印刷 新日本印刷

a&s JAPANは、Messe Frankfurt New Era Media発行のa&s International、a&s Asiaをはじめとするa&s各誌の独占翻訳権を特約して、発行するセキュリティ国際情報誌です。

ASJ社

Advanced Security Journal Corporation
東京都千代田区神田須田町1-7-1 ウィン神田ビル10階 〒101-0041
電話：03-6206-0448 FAX：03-6206-0452

■広告に関するお問い合わせは

E-mail：komori@asj-corp.jp

■購読に関するお問い合わせは

E-mail：reader@asj-corp.jp

■記事情報提供に関するお問い合わせは

E-mail：info@asj-corp.jp

■DM代行サービスおよび電子メール配信サービス

当社では、企業の依頼によりDMまたは電子メールで情報をお届けすることがあります。これらのサービスでは、読者の皆様の個人情報を当該企業には一切公開しておりません。

見るべき対象はどこですか？ 全体も、特定の個所も「きちんと見る」



この画像は実際の監視映像を表すものではありません。Axis各製品の詳細はwww.axis.comをご覧ください。



HDTV品質に対応したAxisのネットワークカメラは、自然な発色を再現した質の高い映像を提供します。被写体を詳細に捉えたい場合に特に有効です。

監視カメラを選ぶ際に「画質」は常に重要な点として挙げられますが、本当に重要なことはその画質をどのように活用するか、ではないでしょうか。Axisではお客様の業務が円滑になるよう、カメラ性能としての画質向上に注力しています。HDTVやLightfinder、ワイドダイナミックレンジなど、優れた画質を実現するAxis製品をぜひご活用ください。



www.axis.com/imageusability

Axisはネットワークビデオの世界的リーダーとして、たとえどのような状況で撮影してもお客様が真に有用となる映像を得られるよう、日夜努力を続けています。

Axisの映像監視で、一歩先を進みましょう。

AXIS[®]
COMMUNICATIONS

世界で選ばれるNVR 第5世代VioStorの進化とは

株式会社R.O.Dが2005年に世界初となるNASベースのNVR「VioStor-220」を市場に投入して以来、VioStorは進化を続けている。ネットワーク・カメラが着実にマーケット・シェアを伸ばしてきたのと同じく、VioStorも知名度を高めてきた。「ネットワーク・カメラの録画はスタンドアロンのNVRで」「スタンドアロンのNVRと言えばVioStor」と、日本のみならず世界で最も選ばれているNVRと言っても過言ではない。

VioStorの進化の源泉となっているのは、エンド・ユーザーや販売店の声だ。フィールドからの要望を集めるだけではなく、独自のイベントでアンケート調査を行うなど、エンド・ユーザーがNVRに対して求めている機能や性能を子細に調べ、それを製品開発にフィードバックしている。それに対するR.O.Dの回答が、プラットフォームの強化やインターフェースの向上だ。たとえば現在の主力

製品である「VioStor Proシリーズ」は、それまでパソコンからしかアクセスできなかったが、NVRにモニターを接続し、マウスを用いることで操作が可能となった。PCレスで利用したいという要望が増えたことに応じて誕生した製品である。

そして2013年3月、既存の8ベイモデルに加えて2ベイ、4ベイ、6ベイの新シリーズ(Pro+) がラインナップされる。それに先駆けて2月には最新ファームウェア4.0.0が登場。使い勝手の良さに定評のあるVioStorが、さらなるユーザー目線の進化を遂げることとなった。

新モデルはローカル・ディスプレイを強化

今回の新モデル開発にあたって同社が着目したのは、「ローカル・ディスプレイ機能」だった。これはモニターを直接VioStorに接続してPCレスでライブモニ

タリングや録画再生が行える便利な機能で、VioStorの大きな特長の一つ。同社はこの機能に対するニーズの変化をいち早く察知したのである。

R.O.Dによると、VioStorユーザーの多くが画面管理をPCとローカル・ディスプレイの両方で行っているという。また画質についてもユーザーの意識に変化が見られる。従来のIPカメラシステムでは、ライブモニタリングも録画もVGA(640x480ピクセル)の解像度で行われていたが、NVRの大容量化に伴い、録画をメガピクセルで行うユーザーが増加。加えて最近ではライブモニタリングも録画もメガピクセル以上、つまりフルHD(1920x1080)品質が求められるようになってきた。その背景として、PCの処理能力が向上し、高画質データの処理がスピーディになったことが挙げられる。それと同様にローカル・ディスプレイでも高画質を求める声が高まり、NVR本体が高い処理能力を備える必要が出てきたのだ。

フルHD対応のハードウェア・デコーディング

そこでR.O.Dでは、VioStor Pro+シリーズにハードウェア・デコーディング機能を搭載。従来のNASベースのNVRは、ローカル・ディスプレイ上へのライブ映像表示も、録画その他の機能もCPUで単一処理していたため、大容量の映像データを処理する際、ローカル・ディスプレイ上のライブ映像表示で遅延が発生するなどの制限が課せられた。し





かしPro+シリーズから実装されたハードウェア・デコーディングにより、ローカル・ディスプレイ上のライブ映像表示が極めてスムーズになり、またNVRの機能への負荷も軽減された*。フルHDでもリアルタイム表示(30fps)が可能となっている。

※ファームウェア・バージョン4.0.0以降。ハードウェア・デコーディングが行われるのはH.264のストリームに対してのみであり、H.264をマルチ・ストリームで配信できないカメラは対象外となる。

ファームウェア4.0.0をリリース ユーザー目線の高い操作性

先述したように、R.O.Dは2013年2月にファームウェア4.0.0をリリースした。こちらは主にPCでの操作性向上を主としたもので、ユーザーがより直感的に操作できるインターフェースに改良されている。

一つ目の特長は、OSと対応ブラウザの拡張だ。従来のWindowsのみならずMac OS X(10.7以降)にも対応。さらにInternet Explorerだけではなく、Google ChromeやMozilla Firefoxからもアクセスできる(いずれもWindowsのみ)。体感的に動作が軽いと評価の高いこうしたブラウザが利用できれば、PCでの操作性が高まり、ユーザーの満足度も上がるだろう。

二つ目は、モニタリングや録画再生を行うインターフェースの刷新(設定画面は対象外)だ。従来のものとの違いは一目瞭然。4.0.0のPCインターフェースは、ローカル・ディスプレイの操作画面に限りなく近づいているのである。またカメラリストの表示形式などが変更になり、システム情報をより明確に管理することが可能で、コントロールパネルをドラッグ&ドロップで操作できるようになったことも、ローカル・ディスプレイとの共通点だ。ローカル・ディスプレイとPCの操作インターフェースを統一することで、ユーザーの混乱をなくし、より直感的な操作性を実現している。

三つ目は、最大64分割表示に対応した点。VioStorには最大128台のカメラを一括管理できるマルチ・サーバー機能があり(PC操作のみ)、それらのカメラを2つのウィンドウ切り替えで管理することができるようになっている。マルチ・サーバー機能を使っていない場合でも64分割表示は可能だが、その場合は登録カメラ数を超えるカメラの表示はできない。

最後に、これもVioStorの大きな特

長の一つであるマルチ・ベンダー。本誌バックナンバーを確認すると、2009年にVioStor取材した記事では、「国内外のメーカー25社、300機種に対応」と記載されている。VioStorはファームウェアをリリースする度に対応カメラメーカー、対応機種が増えているが、2013年2月現在、対応カメラはメーカー約70社、1300機種以上だという。どんなシステムにも加えられるフレキシブルさも、ユーザーから選ばれている理由のひとつだと言える。

SECURITY SHOW 2013では、新モデルのVioStor-X100 Pro+シリーズが展示される。ハードウェア・デコーディングや、顧客からの評価が高いマップ機能などのデモンストレーションも行われる予定だ。ぜひお見逃しなく。

会社紹介

<大阪本社>

大阪市西区立売堀1-7-18 国際通信社ビル6階
TEL 06-6537-1233 FAX 06-6537-1377

<東京営業所>

東京都港区芝5-32-8 青木ビル8階
TEL 03-5419-3354 FAX 03-5419-3359

【名古屋・福岡・宮崎・北海道】

URL:<http://www.rodweb.co.jp/>

ソニービジネスソリューション、映像ネットワーク・ソリューションを展開

ソニービジネスソリューションは、鹿児島銀行に店舗用遠隔モニタリングシステムと店舗ロビー用サイネージシステムを導入した。

店舗用に導入したのは、旋回ズーム型ネットワークカメラを活用したシステムで、2012年12月より鹿児島銀行の全営業支店で稼働。平常時のモニタリングに加え、災害時に本店からリアルタイムで店舗状況を遠隔モニタリングをできる。

また、中央支店には店舗ロビー用に「インタラクティブ・デ

ジタルサイネージシステム」を設置し、銀行情報以外の地域情報も含む多彩なコンテンツを発信している。

このサイネージシステムは、ディスプレイ下部に設置した高画質ネットワークカメラで視聴する人物を捉え、顔認識技術により「性別」「年齢層」を識別し、属性に合わせた特殊効果や内容の重畳ができる視聴者体験型となっている。

さらに、電源にソニー製蓄電池を採用して、夜間に蓄えた電力を昼間に使用する電力需要のピークシフトも実現した。

シャープ、近赤外光対応の監視カメラ用高感度CCDを発売

シャープは、監視カメラが発光する近赤外光を捉え、暗闇でも鮮明に撮影できる1/3型高感度タイプCCD(NTSC方式：52万画素、PAL方式：61万画素)を開発、発売した。

本CCDは、光から電気信号に変換する領域を拡大することで、

可視光より波長の長い近赤外光に対応し、業界最高の3,300mVで可視光感度暗闇の中での鮮明な撮影を可能とした。さらに、フォトダイオード周辺の余分な光を遮断する独自の技術により、業界最小スミア-125dBを実現した。

パナソニック、イメージセンサの高感度化技術を開発

パナソニックは、光波の性質を使って撮像素子に入射する光を色ごとに分離できる、独自の「マイクロ分光素子」を考案・開発し、イメージセンサに適用することで高感度なカラー撮影を実現することに成功した。

光の回折現象を微細な領域で制御するマイクロ分光素子により、カラーフィルタを使用しない色配置が可能となり、カラーフィルタを使用する従来の方式と比べ、約2倍の高感度化を実現。明るい画像信号を得ることが可能となった。

日立製作所、生体情報を用いた電子署名技術の開発に成功

日立製作所は、電子署名の作成に指の静脈パターンなどの生体情報を用いることができ、安全性の証明を可能にする電子署名技術を開発した。本技術により、標準的な電子認証の仕組み

である公開鍵基盤と同様の機能を持つ情報セキュリティ基盤を、ICカードやパスワードを使わずに個人の生体情報で実現することが可能となる。

高千穂交易、連結子会社の商号変更

高千穂交易は、グローバル化をより一層推進するため、連結子会社である株式会社エスキューブを1月1日付で商号変更した。

旧商号：株式会社エスキューブ

新商号：株式会社S-Cube

ジャパテル、東京支店を移転

ジャパテルは東京支店を下記に移転した。移転に伴い、セミナスペースを拡充し20人程度の教育セミナーを開催する。

新住所：〒130-0011 東京都墨田区石原1-41-4 TKビル3F
電話番号：03-6658-8726 FAX番号：03-5637-7834

高品質・低価格のセキュリティシステムを提供する
店舗プランニングの豊富なラインナップ！



- ▶ 豊富なラインナップを持つ
アナログカメラシリーズ
- ▶ 高解像度の
プログレッシブ・ネットワークカメラシリーズ
- ▶ 進化したセキュリティカメラ
HD-CCTVシリーズ HD
cctv™
高機能・高画質カメラ & 最新HD-SDI録画装置



フルHD
HD-SDIドームカメラ
DB1-B4VF NEW!

- 1/3インチ・プログレッシブCMOSセンサー搭載
- 最大フルHD1080P(1920×1080)/30fps
- WDR(ワイド・ダイナミック・レンジ)
- デイ&ナイト(カラー:1.0ルクス、白黒:0.05ルクス)
- 3Dデジタルノイズリダクション機能
- プライバシーマスク



フルHD
HD-SDIボックスカメラ
BB1-B4F NEW!

- 1/3インチ・プログレッシブCMOSセンサー搭載
- DCアイリスパフォーカルレンズ(3~10mm, F1.3)
- 最大フルHD1080P(1920×1080)/30fps
- WDR(ワイド・ダイナミック・レンジ)
- デイ&ナイト(カラー:1.0ルクス、白黒:0.05ルクス)
- 3Dデジタルノイズリダクション機能
- プライバシーマスク

最新のネットワークカメラによる ビジネス価値の向上



- 1** IG2050F [HD IP固定カメラ]
デイ/ナイト(TDN)機能付き
フルHDネットワークカメラ



- 1/3インチ・プログレッシブCMOSセンサ
搭載、TDN(ICR)
- 最大フルHD(1920×1080)、30fps
- H.264/MJPEGのデュアル・コーデック・
ストリーミング PoE対応
- デュアル・オーディオ(ADPCM)、
SDメモ리카ード

- 2** IDC4050VR [HD IPドームカメラ]
高解像度プログレッシブ・
フルHDネットワークカメラ



- 1/3インチ・プログレッシブCMOSセンサ
搭載、TDN(ICR)
- DCアイリス・パフォーカル・レンズ
(3~10mm)、赤外線LED 18個
- 最大フルHD(1920×1080)、30fps
- H.264/MJPEGのデュアル・コーデック・
ストリーミング PoE対応

- 3** IBP5030CR [メガピクセル耐候カメラ]
高解像度プログレッシブ・全天候型
ネットワークカメラ



- 1/2インチ・プログレッシブCMOSセンサ搭載、
800TV本
- DCアイリス・パフォーカル・レンズ
(7.5~50mm, F=1.3)
- 最大1.3メガピクセル(1280×960)、24fps
- 赤外線LED 206個、センサ 1個

CNB CNB Technology Inc. 日本総販売代理店

TENPO PLANNING 株式会社 店舗プランニング セキュリティ事業部
関西支店 仙台営業所 名古屋営業所 広島営業所 福岡営業所 技術センター

東京本社

〒151-0061 東京都渋谷区初台1-46-3 シモモビル2階
TEL:03-3378-4901 FAX:03-3378-4906 www.tenpo.co.jp

販売代理店募集中

製造元 CNB Technology Inc.

HD-CCTV(HD-SDI)が提供するソリューション

市街地・教育機関編

HD-CCTV(HD-SDI)は、高解像度映像により、公共施設や教育機関での安全管理と安全安心を確保する、優れたソリューションを提供することができる。提供するソリューションは、対象により重視する機能が異なる。



市街地監視での導入事例

要望内容

釜山市の一部と慶尚道にある自治地区では、低開発地域犯罪防止サービスの改善を要望していた。対象区域は小学校や犯罪多発地点など90か所で、要望内容は、鮮明な画質、統合性、既存のアナログシステムの活用、そして使いやすさに配慮することだった。

ソリューション

慶尚道に設置されている地域犯罪防止システムのアナログ・カメラを使用して撮影された画像は、円滑な無人制御が困難で、自動車ナンバープレート認識、犯罪者顔認証などでも高い誤認率を示した。

そこで、地元システム構築企業は、自動車ナンバープレート認識機能を備え、犯罪発生の高い時間帯での低照度でのイベントを鮮明に捉えることができるWEBGATE社製C1080BとHD400Hを提案した。



さらに、マルチストリーミングを活用した遠隔監視で、瞬時に正確な情報が得られるシステム構築を提案

した。そして、既存のアナログ製品との監視統合を可能にするWEBGATE社CMSソリューションの採用を提案した。

導入効果

これまで慶尚道で既存の地域犯罪防止効果を発揮できていなかったが、導入後は対象区域全体を表示するだけでなく、既存のアナログシステムも活用した遠隔操作ができ、簡単にしかも迅速に表示画面を見ることができるようになった。これにより、犯罪者の顔認証や自動車ナンバープレート認識などが可能なシステムを確立することができた。

文教地区や地域犯罪防止の管理は、既設の同軸配線を使用しながら、アナログシステムに代えて高解像度高画質の監視システムを導入したことで、高画質の画面で視認することができるようになった。その結果、導入効果に高い満足度を得ることができた。672

慶尚道の自治体では、本システムをもっと高度に活用することを検討していた。それは、管理者の操作なしに、車両の入退や移動、駐車時間などを検知し、ナンバープレートを認識する違法駐車自動制御システムだ。そして、危険な車両に関する全情報を中央管制室に送信する。一方、中央管制室でもその全情報を

一連のプロセスとして自動受信し、データ処理し、記録保存し、全体を制御するというものだった。

WEBGATE社製ボックスカメラによる新基準の制御システムを確立することで、慶尚道の自治体は、最小の要員で管制効果を最大化することを実現した。

米国東部の学校での導入事例

要望内容

米国の教育機関では、Windows PCよりもMACを採用しているケースが多い。あるいはMACしか導入していないといったケースもある。そのため、学校によってはMACを使用したDVRでの映



像検索や再生、リアルタイムでの画面表示を求める要望が決して少

なくない。

ソリューション

WEBGATE社はこれまでに、米国東部の公立教育機関に400セットの16チャンネルDVRを納入した実績を有している。さらにDVRには、JavaベースのMAC OS対応のWeb Viewerを搭載している。これにより、DVR上での映像やイベントのリアルタイム追尾表示機能、PTZ制御、検索や再生などをサポートしている。

詳細は<http://www.tenpo.co.jp/webgate2.html>



さらに高度で、上質なセキュリティへ。
HD-SDIシリーズ フルラインナップ

WEBGATE HD cctv member
 HD-CCTV solution provider

HD-SDIボックスカメラシリーズ



C1080B
 HD-SDIボックスカメラ
 2.1メガピクセル高画質・テイナイト&高機能タイプ



C1080BM
 HD-SDIボックスカメラ(ショートボディタイプ)
 2.1メガピクセル高画質・テイナイト&高性能コンパクトタイプ



C1080D
 2.1メガピクセル高画質・テイナイト機能&
 3軸調整可能



C1080VDIR
 2.1メガピクセル高画質・IR内蔵
 テイナイト機能搭載

HD-SDI全天候型赤外線LEDカメラシリーズ



C1080BL-IR18-AF **NEW!**
 2.1メガピクセル高画質・全天候型小型テイナイトカメラ



C1080BL-IR48-AF **NEW!**
 2.1メガピクセル高画質・全天候型高機能テイナイトカメラ



C1080PT-Z20 **NEW!**
 2.1メガピクセル高画質・光学20倍スピードドームカメラ

HD-SDI DVRシリーズ

4ch 超小型A4サイズ



HDC400M **NEW!**
 超小型HD-SDIフルHDスタンドアローンDVR
 A4サイズ/解像度1080p/720p入力/録画フレーム:4ch(30fps@1080p)/遅延なく高画質録画&再生/HDMI出力1ch/ウェブブラウザモニターリング

4ch **8ch** **16ch**



HD400H / HD800H / HD1600M **NEW!**
 HD-SDIフルHDスタンドアローンDVR
 解像度1080p/720p入力/録画フレーム:4ch(60fps@1080p)/8ch/16ch(120fps@1080p)/遅延なく高画質録画&再生/HDMIとVGA映像出力各1ch/ウェブブラウザモニターリング

HD-SDI アクセサリーシリーズ



RP102
 HD-SDIリピーター(1入力/2出力)
 配線距離を延長する場合に使用する便利なリピーター

HD-SDI▶HDMI



SDI2HDMI
 HD-SDI→HDMIコンバーター
 HDMI入力のあるモニターやテレビで表示が可能

HDMI▶HD-SDI



HDMI2SDI
 HDMI→HD-SDIコンバーター(2入力/2出力)
 SDI2HDMIとセットで使用してHDMI信号の変調可能

SD▶HD-SDI



SD2HD **NEW!**
 SD(アナログ)→HD-SDIコンバーター
 アナログ映像信号6chをHD-SDI信号出力・分割表示可能

HD-SDI▶SD



HD2SD-L **NEW!**
 HD-SDI→SD(アナログ)コンバーター
 SD(アナログ)1出力+HD-SDIスルーアウト1出力

HD-SDI▶SD



HD2SD **NEW!**
 HD-SDI→SD(アナログ)コンバーター
 SD(アナログ)1出力・既存のDVRやモニター接続が可能

WEBGATE WEBGATE 日本総販売代理店

TENPO PLANNING 株式会社 店舗プランニング セキュリティ事業部
 関西支店 仙台営業所 名古屋営業所 広島営業所 福岡営業所 技術センター

東京本社
 〒151-0061 東京都渋谷区初台1-46-3 シモモビル2階
 TEL:03-3378-4901 FAX:03-3378-4906 www.tenpo.co.jp
 販売代理店募集中 製造元 WEBGATE

世界セキュリティ・サービス市場、2012年には660億ドルに

フロスト・アンド・サリバン社の最新報告書「世界セキュリティ・サービス市場の分析」によると、市場規模は2012年が約662億5000万米ドルで、2021年には1391億ドルまで増加すると推測されている。そのカギを握るのが2つのサービスセグメントで、物理的セキュリティとITセキュリティである。

民間と政府機関向けITセキュリティと物理的セキュリティの両方の必要条件が増加する複雑さは、セキュリティをMSSP(管理セキュリティ・サービス供給企業)に外部委託する方向に舵を切ることになるだろう。外部委託方式の採用で、依頼元の社内準備の必要性を抑えることになり、組織のセキュリティに対する資金効率の最良の対応をもたらすことができる。

「現代では多くの企業や機関が非常にコストを意識していて、各社のセキュリティ要件を外部委託し、運営費用を下げることに注力している」と同社航空宇宙&防衛研究アナリストのアンソニー・レザー氏は説明している。「セキュリティは企業や機関にとり優先度の高い事項だが、最終決定権者は最も有利な価格で最も高度なセキュリティ・ソリューションを提供する産業に注目している」。

特にITセグメントにおける攻撃を受ける懸念が高まっている脅威とその複雑から、物理セキュリティとネットワーク・セキュリティの両方を保証するための既存のソリューションに対して、新たにこ

れまで以上の投資に拍車をかけている。MSSPにセキュリティ運営を移行することで、企業や機関はますます複雑多岐化するセキュリティへの要求を専門家に外部委託して、各社本来の基幹事業に集中することができる。

セキュリティ外部委託モデルにより資金の効率的運用を実現しなければならないのだが、未だにいくつかの企業や機関はセキュリティを内部で維持することを望んでいる。確かに、問題に直ちに取り組む場合は社外に依存しない可能性が高くなる。

「セキュリティ管理者間に共通する懸念は、MSSPが常に監視していなければならない会社の範囲が広いことだ」とレザー氏は指摘し、「このことが突然の機密漏洩や不祥事の取り扱いに帰着するのかもしれない」と言う。

セキュリティ・サービスの外部委託が成長している北米や欧州の市場では、企業向け市場での地位と強い顧客基盤の構築がさらに進むと思われる。この傾向は、今後10年で最も成長が期待できるアジア太平洋などの他地域でも広がると予想される。

「MSSPがさらに確立して、優れた顧客サービスを備えた高水準のセキュリティを実証することで、企業や機関はセキュリティ・サービスの外部委託に対して信頼性を高めることになるだろう」とレザー氏は見ている。

中東の需要が英国のソリューションを下支え

BSIA(英国セキュリティ産業協会)輸出協議会が発表した調査報告書が、ドバイで開催されたIntersec2013での結果と一致している。具体的にはHD監視を代表とする中核技術の潮流、過去1年間で顕著だったPSIMやハイブリッド監視ソリューションへの強い要求である。

協議会の87%の会員企業は、中東という極めて重要な地域で積極的に活動していると回答した。そのうちの40%が、過去1年間に中東での売り上げの顕著な増加を報告している。また40%が従来通りの実績があると報告し、残りの20%が売り上げ減少を報告している。2013年については、80%の企業が前年よりも増加し、

残りの20%の企業も売り上げが減少しないと報告している。

調査対象となった会員企業の詳細を見ると、大部分が電子セキュリティ企業だった。現金輸送ソリューションとトレーニング提供が各7%で、これは会議構成の全体と同様の割合だった。

過去1年間で中東で最も大きな反応が得られたセキュリティ技術に関する質問では、25%の回答者がHD監視とPSIMだった。HD監視については、銀行やホテルのロビーのようなセキュリティが重要な場所でメガピクセル・カメラとともに提供して中東で成功している。一方、中東でのPSIMの増加については驚くべきではなく、新規案件が大規模案件であることに起因している。

Intersec Dobai 2013、規模も来場者も増加

Intersec Dobai 2013は、世界54ヶ国から990社の出展企業が最新の機器やシステムを展示していた。世界118ヶ国から21,615

名が来場したが、国別上位5国は、アラブ首長国連邦、サウジアラビア、イラン、オマーン、カタールとクウェートだった。



“Exmor”CMOSセンサー搭載 FCB-HD series

1/2.8型“Exmor”CMOS(約327万画素)

FCB-EH6500(1080p/30) 光学30倍 NEW
FCB-EH6300(1080p/30) 光学20倍

- Auto Focus Zoomレンズ搭載
- 映像信号

FCB-EH6500/FCB-EH6300

HD:1080p/30,1080p/29.97,1080p/25,
1080i/60(30PsF),1080i/59.94(29.97PsF),
1080i/50(25PsF),
720p/60,720p/59.94,720p/50,720p/30,
720p/29.97,720p/25

SD:NTSC/PAL

- ワイドダイナミックレンジ機能
- イメージスタビライザー機能(手ブレ補正)[FCB-EH6500]
- Auto ICR機能 ●ノイズリダクション機能
- デジタルズーム機能(12倍) ●プライバシーゾーンマスキング機能
- モーションディテクション機能 ●カラーエンハンスメント機能
- スローAELレスポンス機能(最長5分以上) ●温度読み出し機能



FCB-EH6500



FCB-EH6300

FCB-micro series

“Exmor”CMOSセンサー搭載 小型サイズカラーカメラモジュール

FCB-MA130(13Mega) NEW

FCB-microシリーズは、ソニーのCMOSイメージセンサー技術と高密度実装技術を駆使し、高画質な画像出力と小型サイズを実現させたカラーカメラモジュールの新シリーズです。イメージスタビライザー、顔検出、ワイドダイナミックレンジ機能など多彩な機能とコンパクトな筐体により、幅広いアプリケーションでお使いいただけます。

- 1/2.45型“Exmor” Progressive Scan CMOS (13Mega pix)
- 静止画出力:13Mega pix(4128(H)×3096(V))
- 動画出力:1080p/30
- 水平画角(F2.8):53.0°(動画)/57.8°(静止画)
- ワイドダイナミックレンジ機能
- イメージスタビライザー機能(手ブレ補正) ●顔検出機能
- ノイズリダクション機能(3D) ●デジタルズーム機能(16倍) ●内部同期



2013年6月
発売予定

筐体サイズ:16.5(W)×10.3(H)×18.0(D)mm

ソニー株式会社

〒243-0014 神奈川県厚木市旭町4-14-1 TEL(046)202-8594 FAX(046)202-6780 <http://www.sony.co.jp/ISPJ/>

※“SONY”,“make.believe”および“Exmor”はソニー株式会社の商標です。
※記載事項は改良のため予告なく変更することがあります。

2018年には輸送市場や商品タグ市場に21億の非接触型認証が出荷

ABIリサーチ社は、21億の非接触型認証がスマートカードとRFIDの組み合わせで、2018年には輸送市場や商品タグ市場に出荷されると予測している。2018年の出荷予測は2012年の実績の2倍以上になる。

2012年にはMi-Fareシステムが非接触型認証市場の80%以上を占めていた。しかし、ABIリサーチ社は、今後登場すると思われる新基準によるソリューションの台頭で、Mi-Fareシステムの市場占有率は69%程度になると見ている。

速い速度で伸長し様々な形態が登場すると思われるこの市場は、各国が世界規模を視野に入れて、信用を高め相互運用性を保証する動きをとることに期待が寄せられている。これにより、非接触認証単独で流通させることができる。英国のITSOやドイツの

VDVがその好例で、中国でも独自の新基準への移行を制定している。独自の標準はその背景で有名な技術を採用している、ソリューションはその地域でのみ確立されることになる。

全体の出荷成長は今後5年間に2桁の年成長率を維持すると予測される。しかし、メモリ機能を有するスマートカードの出荷は減少しており、2012年の1年間で4%減少した。

調査アナリストのフィル・シーリ氏は、「当初の予測よりも早まっているが、メモリカード市場の衰退は想定されていた。輸送公社では、高水準のシステム導入を強力に推進し、さらにセキュリティと多機能性を可能にするプラットフォームを提供する次世代の認証システムに移行することも推進している」と評している。

北中南米の民生用市場ではアナログ機器が優位

IMSリサーチ社は、2013年での北中南米での民生用アナログ監視カメラの出荷が、業務用市場をしのぐと予測している。同社が発表した「民間市場での監視機器の世界市場2012年版」では、民生市場でのアナログ監視カメラの出荷台数が2013年に300万を上回ると見ている。

民生用映像監視装置は店頭とネットで販売されている。厳しい小売業の事業環境にかかわらず、市場は高い伸びをし続けている。IMSリサーチ社の市場アナリストで報告書の著者であるジョシュ・ウッドハウス氏は、「北中南米地域は、民生用映像監視装置の最大の成熟市場だ。業務用市場でアナログ監視装置の出荷が下落する

一方で、民生用市場でのアナログカメラ出荷の伸びていることは、初めて転換点に接近していることを意味する」と言う。

売上金額面では、民生用市場は業務用市場と比較にならない。しかし、アナログ監視カメラ出荷台数は、製品の全面的な寿命と北中南米市場での構成機器の拡張をもたらしている。

ウッドハウス氏は「民生用市場で見られる傾向と技術のうちのいくつかは、業務用市場に対するユーザの本音だろう。費用の点はもちろん、シンプルで使いやすい製品といった要望が、民生用市場が業務用市場よりもネットワーク監視システムへの移行が遅れている最大の要因だ」と述べている。

ACaaS、北米と欧州市場で立ち上がる

IMSリサーチ社が発表した最近の報告書「北米および欧州におけるACaaS」によると、ACaaS(Access Control as a Service: サービスとしての入退管理)は、従来の入退管理では成し得なかった収益の追加創出とエンドユーザへの浸透の機会をもたらす。

「ACaaSはより多くのプラグ・アンド・プレイ型導入を可能にした。また、これまで入退管理のハードウェアもソフトウェア・ソリューションも関与することのなかった錠前屋などをはじめとする広範の産業従事者に市場を開放した」と本報告書の著者でIMSリサーチ社上級アナリストのブレイク・コザック氏は説明している。「ACaaSには、50ヶ所にも満たない出入口を管理するような小規

模ユーザや、広い区域に数百の拠点を持つ大企業などの見込客が存在する」。

施設管理者はACaaS供給者に数多くのビジネス機会を提供してくるだろう。一般的に大規模のオフィスビルでは、施設管理者は建物入口と各オフィスに入退管理機器を設置する。しかし、各々のオフィスでサーバを所有したり、施設管理者にテナントごとのサーバを管理させたりするより、ACaaSを利用することで、施設管理者がシステムを管理し、その費用テナント各社が分担することのほうが効率的である。さらにシステム全体の維持費も抑えることができ、それに伴い各社の分担金も抑えることができる。

**BOSCH**

Invented for life

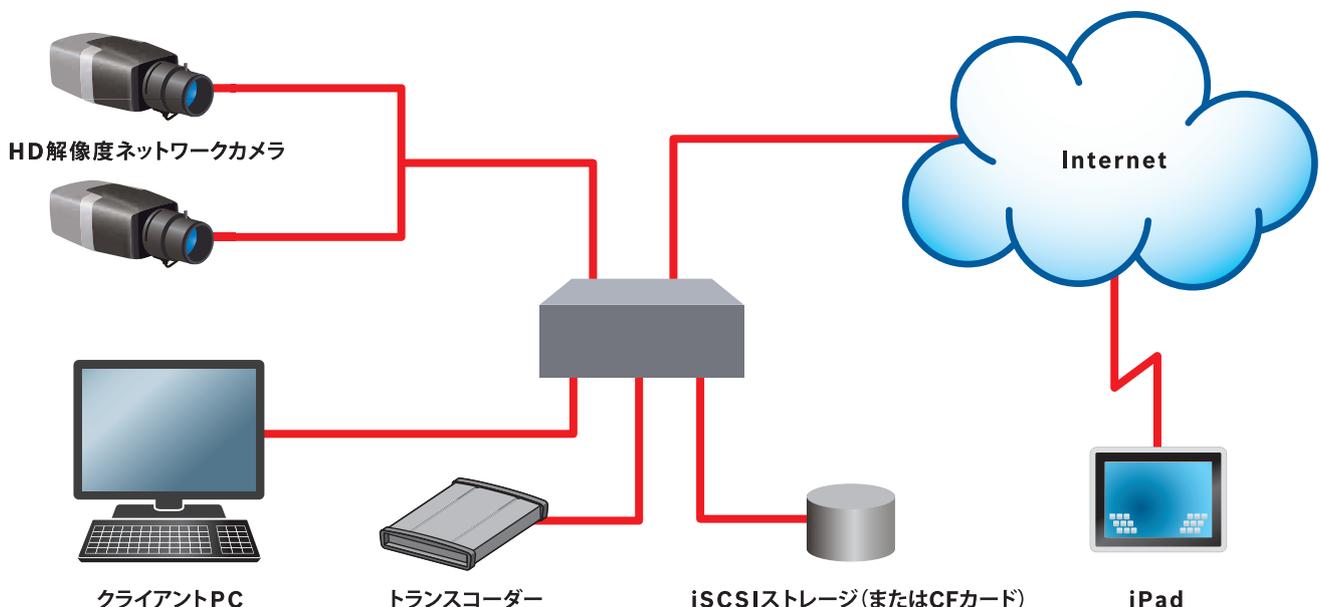
HD Anywhere, Everywhereを実現! iPadにより、HDカメラの画像を最適な解像度で表示可能

ネットワークカメラの画像を、モバイル端末で表示するアプリケーションは従来から使用されています。しかし、その画質、表示品質は、かならずしも満足できるものではありませんでした。BoschトランスコーダーVJT-XTC XFを使用したソリューションでは、帯域幅をチェックし、常に最適な解像度でiPadなどのモバイル端末に、HD解像度ネットワークカメラの画像を表示することが可能。さらに、手動で解像度を修正したり、関心のある画像領域を拡大表示したりすることもできます。Boschのソリューションによって、HD解像度のネットワークカメラの画像を、モバイル端末でもなめらかに表示することが可能になりました。



VJT-XTC XFトランスコーダー (IVA対応)

● トランスコーダーVJT-XTC XFを使用した設置例



● Boschセキュリティ製品に関するお問い合わせ先

Bosch Security Systems日本総代理店 ホーチキ株式会社 インテリジェント・ビデオ・システム部
TEL. 03-6863-5472 www.hochiki.co.jp/business/cctv/

2013年、 セキュリティ産業の激変

2012年が過ぎ去り、新しい年に焦点を合わせる時が来た。2013年を予測するには、2012年を振り返る必要がある。ここでは、2012年のセキュリティ業界を襲った嵐について総括し、新しい年の青空への見通しを示す。

世界的状況

2008年、世界的な景気後退によりセキュリティ業界に激震が走り、景気の波に左右されない業界という神話はおろかも崩れ去った。従来、セキュリティ業界は政府予算の動きに連動してきた。景気後退後の米国とEUにおける政府予算の削減は、事業凍結や延期という形でセキュリティ業界に深刻な影響を及ぼした。先進経済圏のビジネスが行き詰まったため、BRICsや中東そしてアジアなどの新興経済圏に熱い視線が注がれている。

緊縮予算がセキュリティ市場を 圧迫

予算の締め付けにより、価格に敏感になり、価格の比較につながった。時期を同じくして、安価な中国製品の市場流入も起こった。その結果、エンドユーザの購入行動が価格で決まる傾向が強まり、この状況は瞬く間に全ての市場分野に波及した。

大手ブランドによる費用対効果の高いソリューションがセキュリティ業界を上から席卷する一方で、下からは安価な





中国製品が押し寄せてくる。この2つの勢力による影響は、メーカーや代理店、システム構築社や施工企業に至るまで、セキュリティ業界のあらゆるレベルに及んでいる。熾烈な競争と利益の圧迫を逃れる術はなく、業界の全ての企業が、いかにして生き残るかという問題に直面している。

業界の再編

こうした市場環境の中、メーカー各社は過酷な競争を強いられ、価格の低下と収益の減少による流通チャンネルの崩壊が起こりつつある。どうやって売上を増やしながらか利益を維持するかという問題に悩まない企業は1社としてなく、適者生存のゲームが続く状況で、企業は変化する環境への適応を迫られている。例えば英国の大手セキュリティ企業のノーバイン社は、年半ばに組織の再編成を発表した。同社が過去何年にもわたり構築してきた販売網は瓦解し、海外子会社は独立企業体になった。米国も同じような状況で、レインボウ CCTV社とGVI社が力尽きて白旗を上げた。

既存の有力企業が敗れ去る一方で、名乗りを上げる新たな有力企業もある。例えば、ITの巨大企業イングラム・マイクロ社が2009年にセキュリティ業界に進出したのを皮切りに、他のIT企業も続々と参入し、IPセキュリティの分野で目覚ましい成果を上げている。現在の市場では、厳しい財政事情、技術の進歩といった要因により、うまく流れに乗ることのできなかった企業が沈没の憂き目に会う一方で、競争力のある新しい企業が自信を持って参戦してくる。「英雄は戦時に現れる」という諺の通りだ。

東南アジアでは「付加価値」が業界の流行語である。販売代理店からは、テク

ニカルサポートと顧客サービスを強化すべきだという声が上がっている。ほとんどの代理店が、総合的なソリューションになる完全なシステムに注力している。また、エンドユーザに統合の能力や相互運用性を提供するため、製品ラインを拡充する動きも見られる。

業界における役割分担も変化しつつある。例えば一部の映像監視メーカの販売代理店は、売上と利益を拡大する目的で、自社の製品ラインに入退管理システムを追加している。と同時に、古参のシステム構築社がIPの時流に乗って利益を上げるため、大手ブランドの軍門に下り代理店になるケースも見られる。

中国

製造国家としての中国の影響力を軽視するわけにはいかない。この影響力を具体的に理解するには、モスクワのある販売代理店の体験談が良い例になる。この会社では昨年、韓国と台湾の製品を専門に扱っていたが、今年は中国製品の在庫を大幅に増やす必要に迫られた。原因は競合他社が中国製品の販売を開始したことにある。この状況は諸刃の剣だ。追随しなければ売上が大幅に落ち込む懸念があるとは言え、他社と同じこと

をやっても見返りは少ない。この会社は中国製品に対する不満として、利幅の薄さと目まぐるしい製品仕様の変化を挙げている。

つまり一刻も早く売ってしまわなければ、在庫一掃セール運命が待っているだけなのだ。こうした事情から、時間が経つにつれて、採算がとれずに市場に存続できなくなる会社が出てくる。

IP革命

さほど遠くない将来、市場でのIPのアナログに対する優位性はさらに大きく広がるだろう。IHSグループの一員であるIMSリサーチ社によると、IPカメラの専門企業であるアクシスコミュニケーションズ社が、全世界のカメ

ラ市場で首位に躍り出た。同社の圧倒的な優勢は、セキュリティ業界における潮目の変化の速さを象徴している。

IP技術は急速に成熟しつつあり、ベンダ間の競争が熾烈化している。2011年に台北で開催されたSecutechでは、大小様々なメーカ製のIPカメラが徹底比較された。その時点では、メーカによりIPカメラの仕様に非常に大きな違いがあった。同様に、ONVIF規格準拠についても納得のいくものではなかった。2012年SecutechではIPカメラを徹底比較する2回目のイベントが開催され、そこでメーカ各社が発表したカメラは、仕様

一貫性が見られるようになっていた。さらに、カメラの画質やONVIF規格準拠という点で、最大80%の同一性があることが判明した。わずか1年でこれほどの成熟が起こったという事実は、映像監視業界への強力な警告と言えるだろう。IPカメラは今や、ブランドとマーケティングと顧客サービス、そして2013年には価格による差別化の時代に突入した。

クラウド・コンピューティング

IPアプリケーションの成熟にクラウドコンピューティングの成熟が組み合わせられ、サービスとしてのセキュリティという概念が成立しつつある。この組み合わせは、プロバイダとエンドユーザの双方

“ 予算の締め付けにより、価格に敏感になり、価格の比較につながる。エンドユーザの購入行動が価格で決まる傾向が強まった。 ”



に利点をもたらす。エンドユーザは、より信頼性の高い一貫したサービスを月額料金制で利用できることで、初期投資や維持費など高額な出費が不要になる。一方、サービス・プロバイダには、月額料金による安定した収益がもたらされる。

有望なホームセキュリティ

スマートデバイスの普及率が高まった現在、誰もが手許の機器を使って遠隔監視を行うことができる。人間は視覚の生物なので、この技術は速いペースで発達する可能性がある。住宅の所有者が用心深く自宅を監視し、企業経営者が営業状況を常に把握することが可能になる。

ホームセキュリティ需要の増大化に伴い、業界も変容しつつある。この分野の購入者は、通信事業者やセキュリティサービス・プロバイダと考えられる。将来的には、一般市場に対応するため、量販店チャネルでもIPカメラが流通する可能性がある。この潮流により4チャンネルDVRやNVRは時代遅れになり、市場でエンドユーザ・アプリケーションの転換が起こる可能性がある。

スマート入退管理

セキュリティ業界でのIPへの転換という波に乗り、入退管理にも変化が予測される。この分野で注目すべき潮流として、無線電子ロックやNFCがある。第一に、無線のため簡単に迅速な設置が可能になる。第二に、入退許可を柔軟に設定できるため、誰に入退を許可するかを頻繁に変更しなければならないエンドユーザがセキュリティを確保することができる。さらに、入退管理の管理や更新を、要件に応じてソフトウェアを使用して遠隔から実行できるので便利だ。

スマートフォンが市場に広く普及し



▲ この業界が前進するには、組織の再編成は避けて通れない。

た結果、携帯型入退管理が可能になっている。この革新的なアプリケーションでは、NFC対応のスマートフォンが入退管理資格情報を無線で受信する。セキュリティに革新的な技術が次々と導入されれば、効率的で安全性の高い、独創的な便利なアプリケーションをエンドユーザに提供できるベンダが頭角を現すだろう。

生体認証

斬新なアプリケーションが出現しているもう1つの分野が生体認証だ。一例を挙げると、香港のある入退管理企業は、中国の採掘現場において爆発事故発生時の安全問題への対処方法を考案した。このような事故が起きた時、地方政府や保険会社は、負傷者や行方不明者、坑内に閉じ込められた人数を把握しなければならない。従来ではこれが難しかった。しかし、生体認証入退管理システムがあれば、現場や坑内で働いている従業員員の人数や身元をいつでも把握することができる。

成長が見込まれるHD-SDI

2013年には、伝送技術やストレージ技術の進歩がHD-SDIに有利に作用するだろう。技術上のブレイクスルーにより、今後の低価格化も期待できる。その結果、エンドユーザにとりHD-SDIがさらに魅力的になり、様々な市場分野でこの技術の採用が急速に進むものと予測される。

青空へのカウントダウン

先行き不透明な景気情勢、需要に対する供給の過剰、中国製品の流入といった現状にもかかわらず、2013年の市場には期待すべき要素が残されている。ただし現在の経済環境で、この業界が前進するには、組織の再編成は避けて通れない。

同時に、付加価値はセキュリティ業界の重要な潮流であり、各社は利益率を高めるための方策として、先を争って付加価値の追加に努めている。去年は一部の企業にとり散々な年だったが、忍耐は報われる。新しい市場秩序が落ち着くべきところに落ち着いた時、春が到来するだろう。



有力企業が予見する2013年

2013年のセキュリティ市場は不確実性に満ちているようだ。市場の整理統合は既に発生しており、今後ますます進んでいく。IT技術は既存のセキュリティ企業に課題を投げかけるが、新たな販路の開拓や需要の拡大にもつながる。本誌は業界のエキスパート諸氏にインタビューを行い、2013年以降のセキュリティ市場の購入側とエンドユーザのニーズをどのようにとらえているかを尋ねた。



ボッシュ・セキュリティ・システムズ社長
ゲルト・ファン・イペレン氏

アナログからIPへ

全体として2012年の市場は、引き続き山あり谷ありの様相を呈した。成長の主な牽引役だったのは、やはり中国と中南米、東欧州とアジア太平洋地域だ。世界第4位の市場であるドイツが成長という点で中間的なポジションに留まったのに対し、南欧州諸国が金融危機に苦しんだ。

当社が特に注目している動きは、第一に、独自仕様のアナログシステムからネットワークシステムへの転換だ。ネットワークシステムは、無制限の拡張性、リソースの効率的な利用、遠隔からの検証と制御、セキュリティや安全を強化する各種サービスの実現を可能にする。第二に、新たな競合他社の相次ぐ市場参入だ。その結果、革新性がさらに加速している。



タイコ・インタナショナル
社国際顧客営業担当
上級取締役
レナエ・ラーニ氏

ITによる新たな需要と顧客

当社の顧客が入退管理システムの標準化と集約化に着手したのは、10年ほど前のことだった。最近では、世界規模で映像監視の標準化につながる潮流が見られるようになった。こうした動きの背景には、IP映像監視技術の進歩や、映像システムの情報化といった要因がある。

当社が注目しているもうひとつの潮流は、国際企業顧客の実際の経営構造に見られるものだ。IT部門とセキュリティ部門が協調するだけでなく、不動産管理部門や調達部門までもがセキュリティ部門と協調するようになった。その結果、集約的に意思決定を行い、セキュリティ

管理システムをより費用対効果の高い方法で構築できるようになる。

当社国際顧客営業部門で近年一挙に増えたのが、IT業界の顧客企業だ。これらの企業では、データセンタの企業レベルのセキュリティが必要となり、他の業種よりも調達に関して全社的な意思決定を行っている。当社の大口顧客には、大手の石油やガス企業も含まれている。セキュリティの運用や技術の集中化を検討している金融業も成長市場の一つだ。アジアでは運輸と交通業界が急成長しつつある。アフリカなど一部の新興市場では、石油、ガス業界がセキュリティ需要の中心になっているが、食品や飲料業界でも関心が高まっている。



ゲートブロック社広報担当
取締役カルマン・ラー氏

購入者の実利志向の鮮明化

この業界では現実主義的な傾向が強まっているようだ。メガピクセル、HD CCTV、映像解析などについて、マーケティングの過剰な宣伝に踊らされることがなくなった。問題解決に市場の関心が集まっている。当社が注意を払っているのはこの傾向だ。市場が成熟するにつれ、購入者は今までよりも現実的かつ技術的な観点から製品を

チェックする方法を習得する。

当社では、ユーザフレンドリと簡単な操作性を重要な潮流と位置付けている。当社はかなり前からこれらの点に細心の注意を払ってきた。また、セキュリティ業界にもモバイル化の波が押し寄せているため、ある種の新しい条件がメーカーに課せられるようになった。当社は、必要に応じて個々のソリューションに適切な機能を追加している。



サムソン・テックウィン社
欧州担当営業&マーケティング担当取締役
ギャリ・ロウデン氏

手頃な価格で実用的なソリューション

当社は、2010年から2011年にかけて、約200種の新製品を発表した。これらの製品の多くはネットワーク製品で、いずれも大成功を収めた。今年は昨年より数は少ないが、今後数か月間にさらに新製品を発表する予定だ。とはいえ、新しい技術が開発されたり、浸透できていない市場が特定された場合には、ためらうことなく製品を更新する。その良い例が、最近発表した「手頃な価格」のHDネットワークカメラ全7モデルだ。今まではHDカメラが比較的高価だったた

め、広範囲に普及していなかった。同時に、市場からのフィードバックで、不要な機能に費用を払いたくないという顧客の声が聞こえていた。そこで当社は、費用対効果の高い固定カメラとドームカメラを開発してこの問題を克服した。HD技術に関連する重要な機能のほとんどを搭載しながら、価格を低く抑えた製品になっている。

今のような厳しい景気情勢においては、社会基盤へのテロ攻撃を検知したいという要求でも、犯罪を防いで利益を守りたいという単純な要求でも、エンドユーザがセキュリティへの投資から利益を最大限に回収したいと願うのは当然のことだ。幸いにも技術が進歩し、ほんの2~3年前には想像も及ばなかった水準の性能と価値を備えた入退管理システムや映像監視システムを実現している。

行き当たりばったりの窃盗犯、巧妙な手口を駆使する犯罪集団など、脅威のレベルは顧客の業種により千差万別だ。顧客の予算の大小にかかわらず、検討できる製品の種類にまったく不足はない。エントリーレベルとなる低コストのアナログシステムからエンドツーエンドのネットワークシステムまで、豊富な選択肢を用意している。



ネダップ・セキュリティ・マネジメント社マーケティング
事業部エリカ・メジャ氏

IT管理者が意思決定者に

当社の観察によると、ITシステムとセキュリティシステムを保有する多くの企業で、物理セキュリティをITシステムに統合する動きが見られる。セキュリティ最高責任者のみがセキュリティシステムを管轄するのではなく、IT管理者も意思決定に大きな影響力を行使している。



シーメンス社セキュリティ製品担当CEO
ピーター・ホークスウォルス氏

入退管理主体の混合システム

完全なIPシステムや完全なアナログシステムではなく、混合システムの採用が進んでいる。この種のシステムでは、時間をかけて旧システムから技術を移行することができる。多額の費用を投じて配線をやり直すと同時に新しい技術を導入する必要がない。IPとアナログを組み合わせた混合システムでは、既存システム

を延命させながら、高品質の画像、リアルタイムの録画、拡張性といった点で、新旧両方の長を享受することができる。高度なセキュリティが要求される一部のアプリケーションでは、ネットワークカメラをほとんどの部分に採用しながら、遅延時間が問題になりがちな部分にはアナログ機能を存続させている。この点だけを採り上げても、混合ソリューションの実用性は高い。



ヴェリント・システムズ社国際マーケティング&映像情報ソリューション担当副社長、デブジット・ダス氏

包括的なセキュリティ情報

この業界の潮流は強まり続けている。セキュリティシステムとセキュリティ以外のあらゆるシステムで収集される「ビッグデータ」を活用し、包括的なセキュリティ情報を提供できるソリューションを求める大企業が増えているからだ。次世代映像や状況に応じた情報ソリューションに期待が集まっている。映

像だけでなく、全てのシステムからの情報を活用し、より迅速で効率的な事象の発見と対処そして管理を可能にする、実用性のある情報を提供するソリューションだ。それだけでなく、これまでは資源を大量消費するため実現不可能だった映像ソリューションで収集した視覚データを利用するという未開拓のビジネス情報への関心が高まっている。



マイルストーン・システムズ社営業&マーケティング最高責任者エリック・フラトン氏

業務効率の最適化

当社は、製造部門でのRFIDの統合、出荷の把握と制御、POSトランザクションシステムとの統合、小売店の改善を図るための人数計数などのアプリケーションを促進している。IP映像は、入退管理や人事、財務や製造、輸送など幅広い分

野で革新性を加速させる。オープンプラットフォームのIP映像は、さらに大きな規模で業務の最適化に貢献し、セキュリティ問題に対処するだけでなく、長年にわたる計測可能な投資回収の実現、TCO(総所有コスト)削減を可能にする。



アクシスコミュニケーションズ社最高技術責任者ヨハン・ポールソン氏

消費者市場が牽引

消費者市場は、事業者向けのセキュリティ市場の牽引役として根本的な役割を果たしている。人々が家庭でスマート機器を使いこなすにつれ、職場でも同様な機器の需要が発生する。セキュリティの現場で、今後さらに多くのスマート機器

が使われるようになる。

また、自己修復機能を備えたスマート技術によるシステム損壊の減少や、ダウンタイムの短縮も期待できる。新しい監視カメラには自己診断機能が搭載されるため、再起動や更新プログラムのインストール、画像の最適化などを自動的に実行し、管理者の介入が不要だ。

証明の信頼性を驚異的に向上

NFC & Smart World
2013年3月5日(火)~8日(金) 東京ビックサイト
ブース番号 NF2126に是非お立ち寄りください



HIDならではの安全の証明

- あらゆるw/NFC装置を安全な保証に切り替えます。
- ほとんどの主要スマートカードに対応します。
- アップグレードが簡単にでき、システムが長く使用できます。

Secure Identity Object™ (SIO)
データ・モデルのiCLASS SE®



SIOに関する情報は
hidglobal.com/sio、または
QRリーダのスクリーンで
どうぞ。



セキュリティと独自の技術を搭載しました。新しいiCLASS SEは、
携帯電話や高性能な装置をIDカードとして変化させます



iCLASS SEは、セキュリティ・キーマネジメントシステムを含む違反耐性テクノロジーの複数の層で、あなたのアイデンティティを保護します。それは驚くほど柔軟に—MiFARE/DesFIRE, EV1とIndala技術ならびにiCLASSをサポートして、どの装置でもアクセス・コントロール・ソリューションになる我々のSIOデータモデルでアクセス・コントロール・ソリューションに変える事が出来ます。さらに、将来的にあなたのニーズに合わせてカードリーダーの再設定可能です。強力で順応性がありエネルギー効率の良い設計のiCLASS SEは真の次世代アクセスコントロールです。

細情報は下記までどうぞ hidglobal.com/unleash-ASJapan
日本オフィス東京都港区六本木5-16-23 グローブプレイス六本木永坂307
電話・03-6435-5900
平岡 賢二 khiraoka@hidglobal.com



EMEA地域の圧倒的な成長力

2012年、欧州のセキュリティ市場は全ての地域で安泰だったわけではない。着実な成長を維持できたのは、DACH（ドイツ、オーストリア、スイス）とスカンジナビア諸国だけに留まった。南欧州はEUの累積債務危機による直撃を受けた。英国やフランスなど、一部の西欧州諸国は低成長に甘んじており、さらなる拡大への勢いを失ったかのように見える。中東とアフリカと東欧州は依然として好調で、この地域が有望視されている。

EUでの標準化の立ち遅れ

セキュリティに関して、欧州では幾つかの無理からぬ制約と課題がある。EU委員会の最近の報告書には次のように書かれている。「欧州の域内市場は、国境や地方境により分断され、非常に細分化している。最も慎重を期すべき政策分野の一つであるセキュリティは、各加盟国が自らの既得権を手放したがる分野でもある。全世界のセキュリティ市場は過去10年で10倍近く成長し、129億米ドルだった市場規模が、2011年に約1,297億米ドルに達している。欧州での年間売上高は約389億1,000万米ドルだ。しかし、最近の市場の進化が示唆しているように、世界市場での欧州企業の

シェアは、競争力を高める何らかの対策を講じない限り、今後大幅に落ち込む懸念がある」。

欧州の業界が後退した原因は幾つかある。欧州のセキュリティ企業の多くは、長年にわたり成熟市場でアナログ技術に投資してきた。そこにIP技術という重大な課題が生じた。にも関わらず各国間で標準化が行われていない。EU委員会は2012年、欧州のセキュリティ業界と市場に刺激を与え、セキュリティの真の域内市場を成立させる目的で、幾つかの対策を提案した。

「セキュリティ業界にとり、もう一つの大きな課題はソフトウェアやネットワークを含めたIT技術であり、業界での重要度がますます高まりつつある」と

シーメンス・ビルディング・テクノロジー社防災&セキュリティ部門CEOレネ・ユングブルス氏は語る。「その意味でも、セキュリティ業界ではさらなる標準化が必要だ。全の欧州諸国で有効と思われるセキュリティ製品やシステムでも、依然として標準や認定が大きく欠落している。現在、EU委員会がEU内部での製品の一般基準の策定に活発に取り組んでおり、業界向けに様々な首唱を実施している。このような施策は、世界規模で欧州の地位を強化するものだ」。

地域の最新事情

南欧州が経済問題による深刻な打撃を受けたのに対し、DACHと北欧州市場が堅調だったため、欧州全体としては成長率の帳尻が合う結果になったとタイコ・セキュリティ・プロダクト社EMEA & 西欧州営業担当取締役エリ・ウィリアムズ氏は語る。重苦しい景気情勢の中、中東とアフリカで立ち直りの気配が見られた。ロシアは明らかに成長市場だ。2桁成長が予測されたが、小売業や民間企業などの分野では、人と資産を守るために監視などの対策を検討する事例が増えつつある。ロシアでは官公庁が続々とセキュリティ基盤に投資した。これらの事業が更新時期を迎えれば、再びかなり大

きな商機が訪れる。

西欧州

「西欧州のセキュリティ市場は、地域内で活動する多数のメーカーが存在し、他の地域よりも発達している」とウィリアムズ氏は言う。「欧州には複数言語の存在という問題があるが、ニッチ企業が大規模な市場の一角を獲得できるチャンスにもなる。欧州大陸のセキュリティ市場は全体として、世界の他の地域よりも成長が遅い。西欧州市場では言語以外にも、国や地域により固有性が非常に強い要件がある。フランス製品を東欧州向けに販売しようとしても、地域の要件に応じた変更を加えなければならない」。

ジェネテック社も西欧州では成長率が低下した。「成長は安定しているものの、ペースが遅い。市街地監視など官公庁からの需要がある。金融機関など民間部門からの需要も出始めているが、予算の執行は2013年か2014年になる見込みだ」と同社EMEA営業担当副社長兼常務取締役テッド・ガリ氏は話す。「最も発達した国はフランス、そしてベルギー、オランダ、ルクセンブルクのベネルクス諸国で、業種としては小売、市街地監視、交通運輸などだ」。

DACH市場

DACH地域は2012年、健全な成長を

維持した。ただし公共区域でのカメラ使用に関する法的な問題と長年にわたるアナログへの投資が、今後の発展への障害になっている。「DACHでは人々が急速な成長を避け、安定した長期的な成長を優先する傾向がある」とウィリアムズ氏は言う。「急成長中の他の地域が失速し、マイナス成長に転じるような時期でも、この市場はゆるやかながら一貫性のある成長を示している」。

「ドイツ語圏の国々は法律が他国とは違い、より厳密である。そのため、これらの市場の固有性を尊重して適応するには、ローカライズに力を入れ、特殊事情を織り込む必要がある」とガリ氏は指摘する。「例えば当社は今年、EUプライバシー・シール付きのソリューションを発表した。このソリューションを使用すると、動作や行動が見分けられる状態を保ちながら、自動的に人物や自動車をリアルタイムで不明瞭にすることができる」。

東欧州

東欧州の成長率は他の欧州地域を上回った。成長が最も顕著なのは、ポーランドとロシアとトルコだ。「東欧州には人件費の安さという利点があり、基盤投資が増えつつある」とウィリアムズ氏は言う。「西欧州に代わって労働集約的なビジネスを行い、それが市場の発展に役



ABUS 社セキュリティ・センタ
営業担当取締役
マーク・シュアチェラ氏



ジェネテック社EMEA
営業担当副社長兼常務取締役
パトリック・ガリ氏



エクストラリス社DACH地区
マーコム責任者
ダニエル・クロンケ氏



ASP 社
(グルンディグ・セキュリティ)
CEO
ルドウィグ・ベルグシュナイダ氏



アクシスコミュニケーションズ
社中部欧州担当取締役
エドウィン・ルーボル氏

立っている。この地域の多くの国でGDPを押し上げるため、EUも膨大な資本を投下している。東欧州で成長が特に目立つ国はポーランドとロシアとトルコだ。やや困難に直面しているのはルーマニアとハンガリーとブルガリアだ。中東は強い。ポーランドとチェコ共和国は順調だが、ハンガリーはやや低迷している」。

「しかし、ロシアで映像監視が導入されたのは比較的最近のことだ」とアクシスコミュニケーションズ社中部欧州担当取締役エドウィン・ルーボル氏は言う。「そのため、アナログからデジタルへの転換よりもIP映像への関心が高いのは、設置済みのアナログカメラの台数が欧州と比べて少ないからに過ぎない」。

個別市場

住宅

一般的に欧州では、中東に比べて大型案件や政府投資が低調である。この状況を考慮し、住宅セキュリティの重要性が高まっている。「最近の経済危機が原因で、欧州全体で成長は横ばいになっている」とCDVI社輸出営業責任者エリック・アソウリネ氏は語る。「大型案件の多くが先延ばしになっている。それでも当社は世界的に強力な存在のため、それほど苦労せずに成長を続けている。当社の主

な対象は中小企業と、不況の影響が少ない住宅分野だ。セキュリティは日常生活の一部になっている。困難な時期でもセキュリティが必要であることに変わりはない」。

消費者向け製品と事業向け製品の差別化がより明確になってきたと、ABUS社セキュリティ・センタ営業担当取締役マーク・シュアチェラ氏は言う。「購入後すぐに使用できる製品を希望する個人消費者が増えている。プラグ&プレイ機能を備えたエントリーレベルの製品だが、品質は高い。不況の時期だけに何千ユーロも投資するわけにはいかないが、わずかな投資でホームセキュリティに着手したいというのが消費者の要望だ。当社は引き続き住宅部門と中小企業部門に力を入れている。大企業向けに強力な存在感を誇る有力メーカーも存在するが、消費者サイドでは当社の方がブランド認知度が高い」。

また同氏は「ドイツは欧州の他の国々よりも持ち家率が低い」と言う。「世界不況以来、ドイツの住宅所有者の動きが活発になってきた。銀行に預けていた資金を不動産に回すドイツ人が増えている。住宅に投資した人々は、機器を購入してホームセキュリティを改善しようとする傾向が強い。欧州諸国に見られるもう1

つの傾向として、高齢化に伴うセキュリティの需要がある。例えば、高齢者住宅ではドアに機械式のぞき穴を取り付けるのがごく一般的だ」。

その他の個別市場

シーメンス社セキュリティ製品部門CEOピータ・ホークスウォルス氏は、その他の発展中の個別市場について次のように語る。「英国では医療業界からの需要が拡大している。英国の医療機関での患者とスタッフのセキュリティや福利体制を見ると、新生児用タグや個人用アラームそして保護区域などは、今や不可欠なものと認識されている。ドイツとスペインとフランスでは、小売業界と銀行業界に成長が見られる」。

欧州でのセキュリティ製品の流行

クラウドベースのセキュリティとサービス

ボッシュ・セキュリティ・システムズ社は、クラウドを利用したセキュリティとサービスという世界的な時流に対応して、製造部門の多角化を図り、ドイツとオランダを対象にホスティングサービスを展開する計画だ。「当社は、Web 3.0アプリケーションに集中的に取り組んでいる」と同社ゲルト・ファン・イベレン社長は言う。「その一環として、中小企



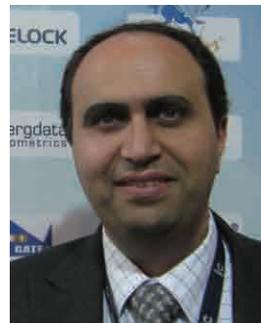
カバ社グループ広報担当
上級副社長
マーチン・バーンメラ氏



HIDグローバル社
欧州営業担当取締役
フォルカ・クンツ氏



RSIビデオ・テクノロジー社
事業開発責任者
レギス・ルラツァ氏



CDVI社輸出営業責任者
エリック・アソウリネ氏



シーメンス・ビルディング・テクノロ
ジ社防災&セキュリティ部門
CEOレネ・ユングブルス氏



DACH市場が堅調であったため、欧州全体としては成長率の帳尻が合う結果になった。

業向けの製品とサービスを組み合わせた『クラウドベースのセキュリティとサービス』というコンセプトがある。中小企業の多くは、セキュリティに関して大企業と同様な要求があるにもかかわらず、保安要員採用や専門的なセキュリティ技術に投資する資金が不足している。当社は『クラウドベースのセキュリティとサービス』により、この顧客層を対象とした映像監視サービスを提供している。インターネットを介して遠隔から建物を保護し、ユーザがアプリケーションを使用して事業所の状況をいつでもチェックできるサービスだ。製品開発と導入のサイクル全体にわたり、当社内の製品部門とサービス部門の専門知識を利用することができる。『クラウドベースのセキュリティとサービス』は今年末の提供開始を予定している。現時点のサービス地域はドイツとオランダだ。この最初のステップが終わった段階で、2013年早々にも新しい製品やサービスを追加し、サービス地域を広げる計画だ。

ホームオートメーション

米国でのホームオートメーションの

高成長率と並ぶ形で、欧州は引き続き世界第2位のホームオートメーション市場だ。スイスコム社やボウイグェス・テレコム社など、欧州の幾つかのサービスプロバイダと電話会社がホームオートメーションサービスを開始している。IMSリサーチ社は、最近の報告書で次のように指摘している。「ドイツ・テレコム社のQiviconソリューションのように、提携先の企業が自社ブランド展開できるホワイトラベルの共通プラットフォームを開発している企業もある」。IMSリサーチ社接続技術担当取締役補佐リサ・アロウスマス氏によると、欧州市場では、スマートプラグやHVAC制御など、エネルギー管理がホーム管理システムの推進力になっている。「様々な規格や独自仕様の技術が使われているため、接続技術へのアプローチがさらに細分化されている」と同氏は言う。

完全なIPへの学習曲線

欧州でもIPの普及率は国によって異なる。欧州市場では依然としてアナログ製品が優勢で、約20%~50%をアナログが占めている。世界の他の地域の方が、



タイコ・セキュリティ・プロダクツ社
EMEA&西欧州営業担当取締役
エリ・ウィリアムズ氏

はるかにIPの採用が進んでいる。しかし、欧州の場合IPに移行するスピードが国によって異なるため、ハイブリッドソリューション、HD-SDI、高度なアナログ製品など様々な選択肢の余地がある。

「IP映像製品の成長率が最も高いのは、スイスとオランダとスカンジナビア諸国だ」とウィリアムズ氏は言う。「これらの国々はDSLネットワークの早期導入組だった。ドイツはISDN電話網に早い時期から莫大な投資をしてきた経緯があり、市場の性質も保守的なので、ドイツでIP製品が全面的に採用されるには、まだ少し時間がかかりそうだ。状況は急速に変化しており、IP映像はドイツで特に好調だが、まだ周辺の国々ほど全体的な普及率は高くない」。

「北欧州諸国では全般的にIP映像の普及率が高い」とホークスウォルス氏は語る。「特にスウェーデンで監視に対する保守的な考え方が変わりつつあり、IP映像の需要が拡大する可能性がある。その原因は悲しいことだが犯罪だ。まさかと思うような犯罪もあるが、ここ数年の間に起こったテロ事件は紛れもなく現実だ。スウェーデンでは最近、新技術であるIPを応用した高度なセキュリティが検討されるようになった。他の欧州諸国とは異なり、アナログの長い歴史があるわ



欧州は中東に比べて大型案件が低調であるため、住宅セキュリティの重要性が高まっている。

けでもない。IP映像なら、様々なシステムと簡単に統合することができる」。

「英国では長年アナログへの投資してきたため、IP映像の成長は比較的ペースが遅い。経済的な制約から旧来のアナログシステムをそのまま使い続けている顧客もいる。もう一つの要因が、英国の法廷におけるIP映像の証拠能力だ。遅延時間が存在するため、証拠として弱いと判断される可能性がある。映像録画の瞬間的な性質を考慮すれば、遅延時間により信頼性が損なわれる」。

一部の企業は地域差を考慮し、製品マーケティングに新しい戦略を採用している。「アナログからIPに移行するペースは、全ての欧州諸国で均一ではない。そのため当社はアナログの市場需要がある限り、アナログ製品の改良とサポートを継続する予定だ」とサムソン・テックウィン社欧州営業&マーケティング担当取締役ギャリ・ロウデン氏は語る。「完全なIPソリューションへの足掛かりになるハイブリッドソリューションの開発も継続する。その一方で、当社のIPネットワークベースの製品ラインナップは、顧客と協力して新しいビジネスを獲得する

ための武器になる」。

「既存のアナログシステムから完全なネットワーク監視ソリューションへの段階的な移行を希望している顧客の便宜を図るため、当社では、有力な独立系ソフトウェア開発企業の映像監視ソフトウェアに当社製カメラとDVRとNVRを統合する計画を急ピッチで進めている」と同氏は言う。「これにより、顧客は当社製品を他のメーカー製の機器とともに制御することができる」。

しかし、IPは絶えず進化している。「IP技術がセキュリティ業界の今後の方向性であることは間違いない。品質と統合、設置とセットアップ、保守点検など、あらゆる点で無視するわけにはいかない多くのメリットがある。ただし、IP映像CCTV技術では、カメラの画質や統合、圧縮率や光感度などの点で、まだ改良の余地が大きく残されている。ネットワークセキュリティ自体も、もっと進歩すると思う」とASP社(グルンディグ・セキュリティ)CEOルドウィグ・ベルグシュナイダ氏は語る。

入退管理の高い成長率

欧州では電子式ロックよりも機械式

ロックの方が広く利用されている。「一部の企業環境では、読み取り装置と、既存の機械式ロックのアドオンとして電気機械式ロックとを併用する傾向が見られる」とHIDグローバル社欧州営業担当取締役フォルカ・クンツ氏は言う。

携帯接続は明らかに有力な潮流だ。2～3年以内に、NFC対応のスマートフォンを使用した入退管理などのアプリケーション開発が活発化すると予測される。

「当社はノルウェーのある企業向けに全てのIDカードを集中管理し、世界各地の従業員に、サービス品質保証契約で定められた48時間以内に個人用カードを発送できる体制を整えている」とクンツ氏は語る。「成熟した市場では個人用カードの需要があるが、ロシアや東欧州諸国はまだ価格重視の市場のため、そうした需要は見られない。さらにプライバシーの問題から、企業データを外部に委託することについては当然ながら抵抗がある。当社はほとんどの場合、読み取り装置とデータが記録されていないカードを販売している」。

「一部の成熟した市場では、公益事業、電力、銀行、製薬、官公庁など特定の業種を中心に、より高度なセキュリティへの関心が見られる」と同氏は言う。「こうした業種では企業買収も活発に行われている。通常、企業ごとに異なる入退管理システムが使用されているが、別々のシステムを1つのソリューションに統合する動きが見られる。物理アクセスを移行する技術や製品は当社が得意とするところだ」。

空港と宿泊施設

欧州では空港と宿泊施設の改築事業が相次ぎ、入退管理市場の成長を促進している。「現在、欧州の全ての国の空港で関心を集めているのがセルフボーディ

ング方式ゲートだ」とカバ社グループ広報担当上級副社長マーチン・バーンメラ氏は言う。「セルフボーディング式ゲートを欧州で最初に導入したのは、ドイツとオーストリアとスイスの空港だ。この潮流と並行して、セキュリティ区域の正面に搭乗券管理ゲートを設置する動きがある。現在手動で行っている業務を自動化し、統合型ソリューションにするのが目的だ」。

宿泊施設分野では、今後2~3年でRFIDロックとネットワーク・ロックが普及する見込みだ。バーンメラ氏の見通しは以下の通りだ。

RFIDロック：欧州では新築時や改築時に導入する新技術として、磁気ストライプカードは候補に挙がっていない。RFIDに人気が集まるのは、使いやすさの他に、携帯電話など磁場の発生源に近付けても磁気ストライプ・カードのように消磁することがないからだ。

ネットワークロック：大規模なホテルほど、ネットワーク・ロックを検討する傾向がある。オンライン・ロックにより大規模施設の運営が容易になるからだ。例えば、特定のスタッフのキーを無効にする通知を全てのロックに配信することができ、それぞれのロックまで出向いてキーを無効にする労力を節約できる。

統合型システム：統合型システムに関しては、不動産管理システム、エネルギー管理システム、客室オートメーション、タブレットを利用したフロントデスク・システムなど、他社と連携して統合型のソリューションを提供することが要求される。熾烈な競争のある市場で、ホテル経営者が差別化に努めており、宿泊体験の質の向上がきわめて重要だからだ。

集中型監視映像と警報の統合

多くの監視センタで、誤認警報を減ら



EU委員会は2012年、欧州のセキュリティ業界に刺激を与え、セキュリティの真の域内市場を成立させる目的で、幾つかの対策を提案した。

す目的で映像の採用を開始している。欧州の様々な国でこの傾向が見られる。

「RSI技術が確立されたのは2000年のことだ。当社はその年、監視センタを対象に市場調査を行った」とRSIビデオ・テクノロジー社事業開発責任者レギス・ルラツァ氏は語る。「全体の97~98%が誤認警報だと判明した。

フランスでは、警報目視確認を怠って警察に出動を要請し、誤認警報だった場合に649ドルの手数料を徴収される。そのため、監視センタに映像証拠がなければ、警察抜きで対処せざるを得ない。この需要が発生したのは1996年だった。

スペインでも3年前、同様の法律が施行された。スイスでは地域ごとの独立性が高かったため、昨年やっと同様の法案が可決され、映像警報システムの需要が高まっている」。

他の企業は、DACH地域で警報の目視確認の普及に努めている。「映像と既存の警報の組み合わせにより誤認警報が

大幅に減少すれば、中央監視基地で時間を節約できるため、より多くの施設を遠隔管理し、別のサービス提供に時間を使うことができる」とエクストラリス社DACHマーコム責任者ダニエル・クロンケ氏は言う。「その結果、中央監視基地の毎月の収益の大幅な増加につながる。このソリューションはドイツ市場で安定した成長を示している」。

「当社は、検出と目視確認の情報の組み合わせにも取り組んでいる。例えば、赤外線動作検知器と映像解析を組み合わせ、境界の防御を強化することができる。より信頼性の高い早期検出が可能になるだけでなく、誤認警報率の低減にもつながる。当社のセキュリティ製品と人命保護製品の組み合わせにも、このアプローチを応用する予定だ。当社では近い将来、1つのリモート監視ソリューションに全ての当社製品を統合し、様々な用途に使えるようにすることを目標にしている」。





中東

中東のセキュリティ市場は金融危機からいち早く立ち直り、「統合」と「IP」への道をひた走っている。天然資源に恵まれ、社会基盤整備が目覚ましい中東では、人と財産と投資を守るための方策が求められている。中東市場の潜在力はきわめて大きい。活況を呈している市場は地域ごとに異なる。「EMEAで成長率が最も高いのは、明らかに湾岸地域だ」とジェネテック社EMEA営業担当副社長兼常務取締役テッド・ガリ氏は語る。「この地域ではセキュリティの要求がはっきりしており、市街地監視やナンバプレート認識の需要が拡大している。中東には、必要なセキュリティ・ソリューションを実現するだけの予算がある」。

中東地域には約400万人が住み、教育機関や空港などの社会基盤整備を拡大している。政府も各種機関も企業も、昨今の多様化し深刻化する脅威から関係者を守る必要性を認識しており、セキュリティ製品への投資が増え続けている。資金豊富なサウジアラビア政府は、教育と社会基盤と医療を改善する目的で、2014年末までに4,000億米ドルを支出する計画だ。さらに中東経済ダイジェスト紙の予測によると、サウジアラビアでは2013年に800億ドル以上の予算が認

可される見通しだ。2011年と比べて実に36%の増加で、交通と不動産、電力と水道に関連する商談では、この王国が明らかに中東随一だ。

今年、世界最大のターミナルであるドバイ国際空港の第3ターミナルで、100台の入国管理スマートカウンタとスマートゲートの第一期導入工事を開始した。高度なシステムにより、旅客の虹彩と顔の画像を認証し、入国管理業務を大幅にスピードアップすると同時に、最高水準のセキュリティを確保することが目的だ。同空港では、2014年までに4つのターミナル全部でこのシステムを導入し、7,500万人の旅客に対応する予定だ。

クウェート中央銀行の新しい本社屋は、2005年に着工し2013年に完成予定だ。41階建て、14万平方メートルの同ビルでは、TPSコンサルト社がテロ対策を考慮して設計したセキュリティ・システムを採用する。さらに、2022年FIFAワールドカップ開催予定地のカタールでも、宿泊施設と社会基盤と競技場を中心にセキュリティ・システムへの投資が続いている。

中東では最新の映像監視技術の需要が大きい。そのため、IMS リサーチ社によると、アラブ首長国連邦(UAE)では約15%の年間成長率、サウジアラビアでは2011年から2016年までに平均25%の成長が見込まれている。また、

顧客の要望はエンドツーエンドで接続されたソリューションのため、新規案件の約70%でIPシステムを採用している。既にIP映像監視はアナログを上回る普及率を示し、2011年には53%になった。

アラブ世界の台頭により、この数字は2016年には79%まで増加すると予測されている。アナログからIPへの転換ではUAEが先頭を走ってきたが、幾つかの理由から、サウジアラビアがこれを追いつくものと見られている。第一に、サウジアラビアは常に石油の年間産出量を低めに予測してきたため、社会的支出に使える余剰資金が豊富である。第二に、イスラム圏の保守的な金融制度のため、サウジアラビアは世界的景気後退の影響を免れている。

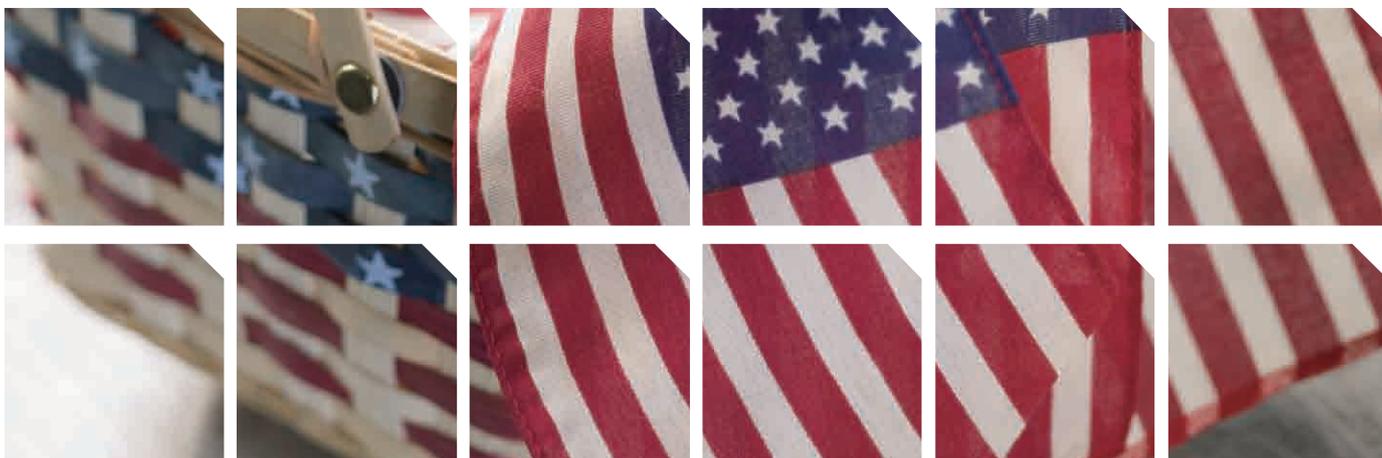
一方、UAEでは、欧米の銀行の強力な存在感、不動産への莫大な投資、限られた石油産出量により、依然として景気後退の影響が感じられる。

映像監視技術が中心的な成長分野であるとは言え、需要と商機は国により異なる。この業界の成長は2010年以降の景気回復によるものであり、社会基盤や交通関連の各種事業が原動力となり、驚異的な年間成長率を示している。IP技術の普及は、2016年までに大幅に加速するものと予測される。サウジアラビアでは、病院や教育機関や空港などの大規模社会基盤事業が、ネットワーク映像監視の普及率を引き上げると予測される。

イランでは市街地監視が大きくクローズアップされており、クウェートでは2013年に銀行関連の大規模事業が確定している。

中東のセキュリティ業界は、多くの商機に恵まれた明るい見通しがあり、西欧州や北米などの成熟市場に追いつく勢いだ。

成熟した米国市場は 低成長



景気が回復しつつあるとはいえ、米国のセキュリティ市場にとり2013年は厳しい年になるだろう。新興地域とは異なり、過去3年間の北米の成長率は約6~7%という低い水準に留まった。困難な時期こそ、新しいビジネスモデルや新しい専門市場の開拓で、セキュリティ専門企業の力が試されようとしている。

2012年、米国市場には若干の景気回復が見られたが、2013年は厳しい年になるだろう。他の新興地域とは異なり、北米の業界成長率ははるかに低く、メモリー・ビジネス・インテリジェンス社によると過去3年間の集計は約6~7%だ。顧客は厳しい経済局面を前提に、今までの投資を最大限に活かす方法を絶えず探し求めている。同時に、セキュリティ専門企業は、純粋なセキュリティ技術に上乗せする形で付加価値を高める必要に迫られている。

変革ではなく進化

米国が経済危機から徐々に回復するにつれ、セキュリティ機器への支出も少しずつ持ち直している。「新製品によりセキュリティを変革する代わりに、企業

のセキュリティ・システムは進化しつつある。言い換えると、セキュリティ業界は従来のような壊して置き換えるセキュリティ強化プログラムではなく、既存基盤を要求に合わせて適応させる方向性が求められる」とCNLソフトウェア社マーケティング責任者アドラン・フセイン氏は指摘する。

セキュリティ機器が収益を生み出すための投資ではなく、付帯的なコストと見なされている現状から、ほとんどの顧客は製品が使い古されたり、要求を満たせなくなったりするまで取り換えようとしなない。アナログ製品は安価で導入が容易であるため、「出荷台数では今のところまだIPやHD-SDIを上回っている」とTMBA社セキュリティシステム顧客営業担当ジョージ・ハンバリゾウミアン氏は語る。

「一部の企業でネットワークカメラの販売台数が増加したと報告されているが、営業の主流は依然としてアナログカメラ」とキントロニクス社社長ボブ・メスニック氏は言う。

しかし、フセイン氏はこうした見方を否定する。「当社の見解では、新規案件に関しては、IPはアナログをすでに追い抜いている。何人ものコンサルタントが、ここ2~3年、アナログの案件は手掛けていないと言っている」。今の米国市場でどちらの技術が主流であるかにかかわらず、IP製品の需要の増加は、全ての業界専門家が異論の余地なく認めるところだ。アナログからデジタルへの転換期を迎えたセキュリティ業界で、2012年は映像監視の当たり年だった。

アナログは依然として使われているが、直近の将来の潮流は間違いなくIPだ。しかし、顧客はアナログ機器にかなり投資してきたため、全面的なIPシステムに転換するわけにいかない。そこで、既存のアナログ機器にIP技術を統合した混合構成を選ぶことになる。この方法なら、ネットワークカメラの優れた画質と解析機能を利用しながら、既存のアナログ製品を有効に活用できる。「今のよう先行き不透明な時期には、以前にも増してそうする必要がある。IPは明らかに潮流だが、ハイブリッドモデルとエンコーダの使用事例が非常に多い」とインテリジェント・セキュリティ・システムズ社CEO最高執行責任者アルイシオ・フィグエイレド氏は語る。

アナログとIP映像の併存をサポートするには、システム構築社の果たす役割が極めて重要だ。IPを採用すると、セキュリティシステムがITなど他のシステムにも影響を及ぼす。そのため、販売後のサポートが従来以上に重要になっている。

当然のことながら、予算が最適な額を下回るのであれば、付加価値の重要性が今まで以上に高まる。「競合他社が懸命にチャンスを狙っているのも確かだ。当社は世界中どこでも顧客企業を定期的に訪問し、何か問題を抱えていないか、状況を把握するよう習慣付けている」とフィグエイレド氏は語る。

主な個別市場

小売市場と中小企業向け市場
マーケット&マーケット社の報告書によると、全世界のセキュリティ市場は2017年に約24億米ドルの規模に達し、2012年から2017年までの平均年間成長率は31.5%と予測されている。2011年の世界市場での北米のシェアは37.5%で、次いで欧州の34.82%だった。

IHSグループの一員であるIMSリサーチ社によると、2012年の米国の中小企業向け市場の規模は5,000万ドル以下と推定される。映像解析の技術的な進歩とVSaaS (Video Software as a Service) ビジネスモデルの導入により、小売市場と中小企業向け市場でこれらの新技術をセキュリティに応用できるようになった。これらの市場は米国で最も成長率の高い分野になっている。

「タイコ・インテグレート・セキュリティ社とタイコ・グローバル・アカウント社では、幅広い映像管理ソリューションとサービスを各国向けに提供している。一部の国では技術のみを提供し、その他の国では顧客の映像をクラウドで管理することも可能だ。映像を確認して誤認警報による損失を低減できるので、管理サービスに顧客の関心が集まっている。



▲ CNLソフトウェア社マーケティング責任者アドラン・フセイン氏



▲キントロニクス社社長ボブ・メスニック氏



▲インテリジェント・セキュリティ・システムズ社CEO最高執行責任者アルイシオ・フィグエイレド氏



▲TMBA社セキュリティシステム顧客営業担当ジョージ・ハンバリゾウミアン氏

る。特に米国とカナダでは、この種のサービスへの需要が高まっている。予算が限られ、人員削減を余儀なくされている企業が多いため、VSaaSがとくに人気を集めている。映像管理を導入すれば、守衛を雇う必要もなく、当社監視センターが24時間年中無休体制で提供するセキュリティサービスを利用できる」とタイコ・インタナショナル社国際顧客営業担当上級取締役レナエ・リアリ氏は語る。

教育機関

各地の学校で銃乱射事件が立て続けに発生した結果、教育機関は大幅な成長率を示した唯一の専門市場になった。こうした悲劇的な事件が起こると、該当する施設の安全意識が高まる。例えば7月にコロラド州の映画館で銃乱射事件が発生して以来、各地の映画館が安全策を強化し、仮装やマスクを着用した人の入場を断るなどの措置をとっている。公共の場所への警察の出動も増えている。ただし、上記の事件そのものは物理セキュリティの売上増につながっていない。「今のところ、あの事件はあくまで異例の出来事

であり、潮流とは見なされていないようだ」とフィグエイレド氏は見ている。

このような状況に対処するにはセキュリティ機器だけでは不十分である。銃の乱射を防ぐには、適時な監視と対策、地域社会による相対的に完全な関与も必要だとトランセキュア社CEOアート・コサトカ氏は言う。

高等教育機関が成長著しい有望な専門市場であることは、多くの業界専門家が認めるところだ。事件の発生を検知するには、キャンパスの物理セキュリティが有効だとフセイン氏は言う。「問題は、適切な対応を一貫して効率よく行い、膨大な量の警報イベントを効率的に管理できるかどうかだ。この問題を解決するため、PSIM (Physical Security Information Management : 物理セキュリティ情報管理) に戻る高等教育機関が増えつつある」とフィグエイレド氏は語る。「大学では事件が起こった時に全ての学生に知らせることができるよう、セキュリティ対策を統一する動きが見られる。さらに、顔認識と入退管理の組み合わせによるセキュリティの強化などが検討されている」。全体として、教育機関ではセキュリティの統一だけでなく、セキュリティ上の問題への最適な対処に関心が集まっている。

ホームセキュリティ

ユーザーがWeb対応機器を使って自宅を制御できるIPベースのホームオートメーション・サービスの人気が急上昇している。ホームオートメーション技術はかなり前から存在していたが、広く普及するようになったのは最近のことだ。機器価格が下がり、スマートホーム技術がエンドユーザの手に届きやすくなった。ストラテジ・アナリティクス社によると、

米国では約6%の家庭が「スマート」に分類される。

BCCリサーチ社によると、米国のホームオートメーション市場規模は2010年に約32億ドルだったが、2016年には55億ドルを超えると予測される。この市場の成長要因は、安心感や生活の質的向上だけでなく、エネルギー利用の効率化を求めるエンドユーザ需要にある。

米国の家庭では年間100億ドルがホームセキュリティサービスに費やされている。パークス・アソシエイツ社の報告では、映像監視ホステッドサービスへの移行により、住宅市場での管理サービス時代が遂に到来し、近い将来、小規模商業向けビジネスが後続すると予測される。遠隔映像監視やホームオートメーションなどの利点から、2016年までにホームセキュリティ市場は30%の拡大が見込まれる。

VSaaSに様々なサービスを統合することで、より総合的で費用対効果の高いサービスが住宅市場にもたらされる。ストラテジ・アナリティクス社によると、米国では約20%の家庭が月額制の専門家監視を利用している。顧客は、VSaaSを利用することで、手頃な料金で遠隔地で映像表示することができる。そのため、住宅市場には潜在的な成長力がある。

主な推進要因の一つは、管理方式のホームコントロールに参入するサービスプロバイダの増加だ。IMSリサーチ社によると、ADTセキュリティ・サービス社、ヴェリゾン・ワイヤレス社、コムキャスト社、ロジャース・コミュニケーションズ社、タイムワナー・ケーブル社、コックス・コミュニケーションズ社など、米国の電話会社と警備会社の多くが、既にクラウドを利用した管理サービスによるスマー



▲ トランセキュア社CEOアート・コサトカ氏

トホームソリューションを提供している。

ALPR/LPR用途の拡大

米国のALPR/LPR (Automatic License Plate Recognition / License Plate Recognition 車両ナンバープレート認識) 市場は2011年の時点で6,800万ドル規模と推定され、今後5年間で2倍以上に成長すると予測されている。主な成長要因は、犯罪の検知と捜査を目的とした情報化警察だ。IMSリサーチ社によると、ほとんどの州が予算の制約からALPR/LPR技術を未導入だが、いずれ資金が拠出されると見られる。50万台以上の車両を保有する米国警察機関は防犯と警察活動のため、この技術に莫大な投資を行うと予測される。ただし、ナンバープレート形式の増加が、ALPR/LPR技術とその将来的な成長に課題を投げかける懸念がある。

警察だけでなく、その他の事業者もALPR/LPRを導入し、車両への関与を自動化している。この技術は交通規制や方向制御の自動化に役立つだけでなく、必要な人的資源の削減にも貢献する。「自動化が至上命令になる傾向がますます強まっている。自動化にうまく対応するほど、製品の需要が大きくなる」とフィグエイレド氏は語る。





2013年も 快進撃が続く アジア

世界経済は全体としてまだ低迷を続けており、世界の多くの地域が景気後退の余波から抜け切っていない。そのため、IMFは2012年4月以来、2度にわたり世界成長予測を下方修正した。全般的に苦しい景気情勢の中で、一部の地域ではセキュリティ業界が活況を呈している。過去3年間セキュリティ業界の継続的な成長が見られた地域として、幾つかの調査報告書でアジア太平洋地域を挙げている。今後数年でさらに成長が見込まれる地域としても、やはりアジア太平洋地域を選んでいる。

2012年、の全世界のセキュリティ機器市場の総価値は、出荷価格で205億7,000万ドルだった。映像監視製品は49%に相当する100億ドルで、そのうちアジアの占有率は約48%だった。現時点で最大のセキュリティ市場は先進経済圏だが、これをアジア太平洋地域が猛追して超えようとしている。アジア太平洋地域の映像監視、セキュリティ関連機器の市場は最速ペースで成長していると複数のアナリストが指摘している。さらに、アジア太平洋地域の生体認証市場は年平均12.5%成長し、2016年には9億ドルの規模に達すると予測される。リサーチ&マーケット

社の調査によると、北米や欧州の先進市場はアジア、特に中国に市場占有率を奪われつつある。2010年代の終わり頃には、中国が1国で最大の市場になると見られている。

アジアは今が商機

アジア太平洋地域には多数の新興経済圏があり、官民とも社会基盤整備や建設事業を活発に行い、セキュリティ業界の成長に大きく貢献している。「当社で見るところ、アジアのセキュリティ市場の主な成長要因は、依然として経済優先度が非常に大きい点である。2013年、成長は遅くなると予測しているとはいえ、アジアのほとんど全ての産業でセキュリティシステムへの需要を後押しす

る、持続性のある重要な営業活動が展開されるだろう」と、アデムコ(ファーイースト)社営業&マーケティング事業部取締役パトリック・リム氏は語る。

2013年に成長が予測される主な業種は地域内でも様々だが、官公庁から民間銀行まで多岐にわたっている。「業種により成長に違いがあると思われるが、アジア太平洋地域の場合、主な専門市場は銀行と金融、小売と交通運輸だ。それに加えて、物流が2013年も引き続き成長が予測される分野だ」とタイコ・インタナショナル社アジア担当国際顧客営業専門市場取締役アラン・パーカ氏は語る。

政府が主体になって市場の拡大を促進している国もある一方で、民間の投資活動が急増している国もある。「アジアでは、政府支出が重要な成長要因だ。とくに中国とマレーシアとシンガポールが顕著だ。フィリピンではホテルやメディアサービスを中心に非常に強力な事業活動が見られる。インドネシアでは技術系サービス部門がそれに該当する」とリム氏は言う。

クラウドへの移行

アジア太平洋地域では、中小企業向けのクラウド市場の競争が激化している。ホスティングとクラウドサービスのコンサルタント企業パラレルズ社によると、



▲ インドネシアは急成長しつつある新興市場であり、セキュリティ業界にとって潜在力は大きい。

アジア太平洋地域での中小企業向けクラウドサービスの2012年の市場規模は76億ドルで、38%の年平均成長率で成長し、2015年には198億ドルに達すると予測される。中国には330万社、インドには350万社の中小企業が存在し、この2か国が市場を牽引すると見られる。中国では72%の中小企業がまだサーバを導入しておらず、インドでは78%の中小企業が今後3年以内にホステッドサーバやホステッド基盤機能を追加する意向があり、これらの市場の潜在力は高い。全体として、アジア太平洋地域の国々の中小企業はクラウドサービスの導入に極めて意欲的で、高額な初期費用なしで導入できる柔軟なコスト構造が企業を惹き

つけるとリム氏は見ている。

同様に、タイコ社はクラウドコンピューティングの可能性に注目している。「IMSリサーチ社によると、2011年に販売

されたDVRの約65%がイーサネット対応と推定される。これは、クラウド経由で映像を配信してセキュリティ以外の関連ソリューションに利用する潜在的な市場の存在を示すものだ」とパーカ氏は指摘する。

アジア太平洋地域のパブリック・クラウドサービス市場は、全世界最速ペースで成長すると予測されるが、その原因は中小企業群での急速な普及にあるとマーケット・インテリジェンス社上級アナリストのサウラビ・シャルマ氏は言う。

東南アジアに注目

米国商工会議所の試算によると、アジアでは今後10年間で約1兆ドルに相当する各種社会基盤整備事業が外国からの投資を呼び込むと推測される。「IT企業のアジア太平洋地域への投資が増えるにつれ、2013年はこれらの企業からのエレクトロニクス関連の要求がさらに高度化すると予測している」とパーカ氏は言う。

アジア諸地域の中でも、特にインドネシアとタイを見落とすわけにはいかない。「セキュリティ関連の政府支出が減



▲ タイコ・インタナショナル社アジア国際顧客営業専門市場担当取締役アラン・パーカ氏



▲ アデムコ(ファーイースト)社営業&マーケティング事業部取締役パトリック・リム氏

VIVOTEKが大手食品会社で大規模なセキュリティソリューションを提供

義美食品 (I-Mei Foods) は 1934 年に設立された台湾最大の食品会社の 1 社で、人気のスナック菓子や飲料を消費者に提供しているだけでなく、世界の食品サプライチェーンにおいても重要サプライヤの 1 つに成長を遂げています。従来の製造工場に加え、展示空間に製造設備の展示と製造プロセスのライブデモンストレーションの 2 つの生産エリア、販売、自然公園を組み合わせ、独自の公開施設である義美食品観光工場 (I-Mei Apprentices Training Center) を擁しています。

背景 - 慎重な計画プロセス

最近、義美食品はこの工場のセキュリティシステムをアップグレードするべく、このプロジェクトの計画と実施に VIVOTEK を選択しました。このプロジェクトにおける会社の目標は 3 つありました。第一に、システム管理者が中央制御室から工場全体の各場所を遠隔監視できるようにすること、第二にクリアな高精細ビデオを取得すること、そして第三に安全な自律型のネットワーク環境にシステムを実装することです。

新しいシステムは、従来の低解像度 CCTV カメラに基づいた元のセキュリティインフラストラクチャからの大規模なアップグレードとなります。



メガピクセル級の IP カメラが必要とする高帯域幅のデータ転送ニーズに対応するため、このアップグレードでは光ファイバーネットワークの導入が必要となりました。プロジェクトのもう 1 つの課題は、システムで監視する必要がある環境の多様性で、2 つの生産エリアだけでなく、屋内と屋外の両方のエリアも監視に含める必要がありました。

ソリューション - 強力な機能と簡単なアクセス

このプロジェクト全体で、281 台の IP8332 と 11 台の IP8335H カメラを含む合計 330 台のカメラが展開されました。1.3 メガピクセルの IP8332 砲弾型ネットワークカメラが生産エリア全体に設置され、義美が必要とする高解像度のビデオを提供します。本来屋外環境向けに設計された IP66 仕様のハウジングを装備した IP8332 は、これらのエリアで時折生じる高温と高湿にしっかりと対応します。

11 台のメガピクセル砲弾型ネットワークカメラ IP8335H も屋外用途向けの設計となっており、これらは工場のグラウンドや入口などに配備されました。VIVOTEK の高度なワイドダイナミックレンジ (WDR) テクノロジーの搭載により、IP8335H は光線条件の変化にも対応し、細部までクリアな映像を確保できる最適なカメラです。WDR テクノロジーは、明るい場所と暗い場所が同時に存在する場合でも視野全体で細部までクリアな映像を確保できます。優れた高解像度画質と WDR の組み合わせにより、IP8335H は工場を出入りする車両のナン

バープレートをはっきりと映し出すなどの高度なタスクにも対応できます。

義美の新しいセキュリティソリューションにおけるこれら 2 つの大黒柱に加え、VIVOTEK はさらに、工場全体のエレベータ内部監視用に 37 台のドーム型カメラを、エコビレッジパークエリアの監視用に SD8362E をそれぞれ設置しました。後者は強力な 20 倍ズームと WDR サポートを提供する 2 メガピクセルの最高位モデルです。義美は主にエコビレッジの魅力を視覚的に伝える映像をキャプチャするためにこのカメラを使用しています。フル HD ビデオ機能を搭載したこのカメラはこの目的に最適です。

お客様のフィードバック

この新しい VIVOTEK 提供のセキュリティシステムを実際に使用した義美の技術部門マネージャ、Zhao Zhen-cong 氏と Yang Sheng-kai 氏は、その体験について次のように語っています。「このシステムの映像は非常にクリアです。出入りする車両のナンバープレートを実際に識別できるだけでなく、販売エリアではレジ係による処理をはっきりと見て取ることができ、お客様との間でやりとりされる紙幣の額面金額までわかります。VIVOTEK は計画段階からテクニカルサポートの提供まで、非常に協力的でした。このシステムは全体としてとてもシンプルで使いやすく、すべての機能にアクセスする方法も簡単に学ぶことができます」。

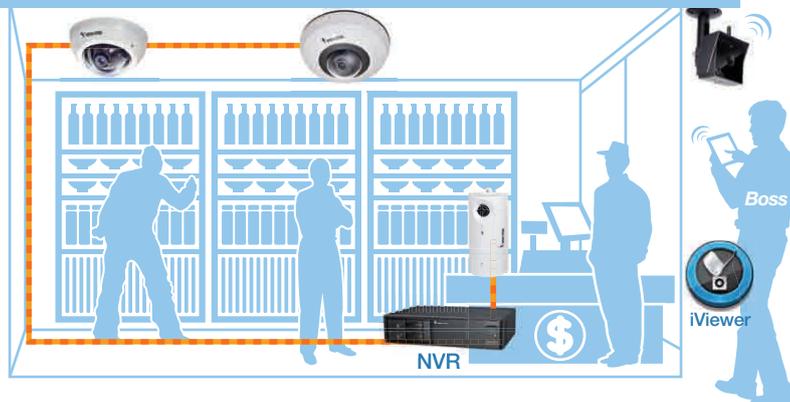




180°
サラウンドビュー

ビジネスを高い信頼性で保護
店舗向けのベストソリューション

マーケット



- PoE または WiFi
- コンパクトサイズ
- 簡単なインストール

VIVOTEK は、小売業界のニーズに合わせてカスタマイズされたメガピクセルカメラのシリーズを発表しています。小型でエレガントなデザインに加え、取り付けも簡単なこれらのカメラを設置することで、世界一流の監視システムを容易にセットアップできます。店舗オーナーは VIVOTEK iViewer アプリを利用して iOS および Android 携帯端末からビジネスを遠隔監視できます。

少する兆しは全くない。また業績好調な企業、特に高額部品や高級品を扱う業種で、セキュリティへの支出が続くと予測している」とリム氏は語る。テロ攻撃や大規模な自然災害、犯罪率の上昇により、政府と一般市民の間でセキュリティの意識が高まっている。同時に、政府主導の事業が、多くのアジア諸国でセキュリティ機器の需要を増やしている。

インドネシア

インドネシアにおけるセキュリティ機器の需要は、政府部門のほか、成長著しい建設と商業、工業と住宅部門に至るまで、様々な専門市場のニーズに支えられている。とくに工場と商業ビル、公共施設と石油・ガス田の採掘現場、空港と港湾において、セキュリティ機器と安全機器の需要が著しく増大している。

2012年5月27日、インドネシアのスシロバンバン・ユドヨノ大統領は、インドネシア経済開発加速拡大マスタープラン(MP3EI)を発表した。同国はこのプランを2025年まで実施する。MP3EIの目標は、GDPを4兆5,000億ドルに押し上げ、国民1人あたりの所得を現在の3,000ドルから1万5,000ドルに増やすことで、2025年までにインドネシアを世界第17位の経済大国にし、上位10の経済圏の1つに位置付けることだ。

例えば、インドネシア政府は2012年、MP3EIで規定される農業と鉱業、エネルギーと工業、海運と観光、通信と戦略分野という8つの分野の発展のため、約410億ドルに相当する110の事業を計画した。そのため、基盤整備が急務になり、セキュリティ業界の活躍が期待される潜在市場は非常に大きい。

タイ

2011年の壊滅的な洪水から立ち直ったタイ経済は2013年、米国大使館商務



▲ タイは東南アジア最大のセキュリティ機器製品の市場で、市場全体の30%を占める。

部の試算によると6~8%の成長が予測される。タイはアジアの高成長市場の1つだけでなく、セキュリティ関連の商機が豊富な、アジア最大のセキュリティ市場でもある。タイのセキュリティ市場は2012年末までに30%の成長率を達成すると見られ、この成長の70%がタイ政府によるものだ。

政府のセキュリティの需要の原因としては、最近の麻薬対策の強化、カンボジアとの国境緊張による監視技術の高度化や輸送基盤強化の必要性、2004年以来続く暴動によるバンコクおよび南部地域の全般的なセキュリティ支出増、犯罪発生率の上昇がある。米国大使館商務部の推定によると、セキュリティ市場での政府部門の占有率は50%と高水準で、オフィス商業複合施設が30%、残り20%が産業施設と大学となっている。

この2年間のIPセキュリティ技術の普及は驚くべきものだった。データ速度を100Mbpsに高める全国規模のFTTH(Fiber To The Home)事業が進行中で、この潮流が今後も続きIPの市場成長率は

30~40%と予測される。民間部門でIPベース製品の採用が進んでいるだけでなく、政府事業でもIPベース・システムが指定されている。

今後数年間に、セキュリティ業界に商機をもたらす政府部門の主な事業として、タイ政府は鉄道網開発のため今後5年間で56億ドルを拠出することを確約した。そのほかにバンコク大衆輸送システム、レムチャバン港、スワンナプーム空港の拡張や、高速列車網への投資、刑務所2か所の新設が予定されている。刑務所分野に関しては、電子的な囚人監視機能を導入し、刑務所への携帯電話などの持ち込みを防止する計画だ。

商業分野では、業界専門家によると、バンコクに新設される4か所の巨大商業複合施設で新たに75万平方メートルの小売業スペースが出現し、セキュリティ機器の需要が発生すると見られる。セントラルプラザ・ラマ9とターミナル21は2011年に完成し、メガバンナとセントラルエンバシはそれぞれ2012年と2013年に完成予定だ。



中国、 セキュリティ業界に 響き渡る龍の咆哮



好調な専門市場と分野

監視

中国はセキュリティ業界の製造国としてだけでなく、セキュリティ市場としても発展しつつある。中国のセキュリティ市場は、同国政府が全国規模の安全都市計画を開始した2006年以来、活況を呈している。IHS iSuppli社の予測によると、中国の監視市場は2015年に売上高114億米ドルに達する見込みだ。現在の世界的な経済不安にも関わらず、この市場は年20%のペースで成長し、2020年には最大のセキュリティ市場になると予測されている。

2013年も引き続き監視機器の需要増が予測される。2008年の北京オリンピック、2010年の上海万博、2011年の深圳夏季ユニバーシアードの後、セキュリティへの政府支出は減少したものの、急速な都市化によって中国のセキュリティ市場は成長を続けている。中国には人口500万人以上の都市が10、100万人以上の都市が約150もある。

監視製品が好調な専門市場としては、教育と空港、医療と競技場、交通とエネルギー、通信と工業など様々な新しい分野がある。富裕層の増加に伴い、高品質な住宅用セキュリティ機器やサービスの需要が喚起され、住宅セキュリティ市場のシェアは15.8%という驚くべき水準に達している。さらに、ネットワーク接続のインテリジェントなデジタル製品など、ハイエンド機器への買い替えが2013年の監視市場を成長の要因になると予測される。

中国政府主導の各種事業により、映像監視機器の広範囲な導入に向けて引き続き需要が作り出される。アナリストによれば、2011年の映像監視市場の成長率は30%で、2015年には市場規模110億ドルに達する可能性がある。そのほとんどが政府主導である。その中でも2011年から2015年までの第12次5か年計画で、主要都市のデジタル・フレームワークが2015年までに完成する見込みだ。例えば、2012年、カナダ企業キャント

ロニック社は、中国南部の重慶市が実施する監視用ソフトウェア提供の案件で、12億ド



▲エンセック・ソリューションズ社
営業責任者カイル・ライ氏

ルの契約を獲得した。この案件では50万台のカメラを設置する。

民間部門では、収益の大きい中国市場での市場占有率獲得に努める外国企業からの出張客の増加や、東洋の魅力に誘われる熟年世代の観光客の増加を受け、ホテルとカジノで発生する商機も見逃すわけにはいかない。「当社では、特にマカオとシンガポールの高級ホテルとカジノを有望な専門市場と見なしている。通常、大規模なホテルやカジノでは、1,000台以上のカメラに加え、録画サーバや関連インフラも必要だ」とエンセック・ソリューションズ社営業責任者カイル・ライ氏は語る。

入退管理

他の高い成長力を秘めたセキュリティ分野として、中国の入退管理業界がある。IHSグループの一員であるIMSリサーチ社によると、商業および住宅部門で意識が高まり、入退管理製品の需要が拡大するとともに、交通機関や病院の政府主導事業により、中国の入退管理業界は今後2~3年にわたり12%以上の年間成長率が予測される。

製品の潮流

グローバル・インパクト・コンサルティング社の予測によると、中国における安全やセキュリティの需要は、デジタル技術、出入口守衛通信システム、ネットワーク技術を応用した検査制御システム、警告システムなどハイテク機器が中心になる。





インドは、セキュリティ業界の成長著しい市場だ。セキュリティ機器の市場が過去3年で年平均25%成長し、今後5年間この傾向が続くと予測されている。「インドのセキュリティ市場は過去5年間着実な成長率を示してきた。年間成長率は15~20%だ。通例に違わず、政府と民間企業が成長の主な原動力になっている。住宅部門も成長しているが、大幅ではない。この傾向は2013年も同様のペースで続くだろう。需要の中心はCCTV製品で、その他の製品群も徐々に伸び続ける」とジコム・エレクトロニック・セキュリティ・ソリューションズ社常務取締役ブラモウド・ラオ氏は語る。

市場の推進要因

急速な都市化とグローバリゼーションに伴う犯罪率の上昇とテロ活動の多発が、セキュリティ機器とサービスの需要増につながっている。マーケット・リサーチ・レポート社によると、犯罪活動の頻発と潜在的なテロ攻撃の危険性を背景に、住宅、商業、企業部門を中心にセキュリティ機器の需要が生じている。「小売と不動産部門の成長と歩調を合わせる形で、教育、社会基盤、航空など他の部門でも成長し、需要の増加に対応している」とスバルシュ社常務取締役サンジェーブ・セーガル氏は語る。

ティサービスの4分野に大別される。映像監視を含むセキュリティ機器が市場全体の79%を占め、インタフォン3%、侵入検知3%、残り15%がその他である。

需要のある個別市場

映像監視の分野では、最近出現したばかりのホットな専門市場が幾つかあり、これらが2013年も引き続き注目に値すると予測される。2008年にムンバイで同時多発テロが発生して以来、特に映像監視の動きが活発である。IMSリサーチ社は、インドの市街地監視事業を今後5

年間で最も成長率の高い専門市場と位置付けている。インド全28州のほとんどの都市で市街地監視事業を計画しているため、潜在力は極めて大きい。バンガロールとコルカタの市街地監視事業は既に進行中で、5,000台のカメラを設置するムンバイの案件は2012年後半に始まる予定。スラトとアーメダバードについては先進的な計画が既に確定している。その他、映像監視の高成長率が見込まれる専門市場としては空港で、2011年から2016年までの間に売上高がほぼ4倍になると予測されている。

好調な分野

映像監視以外のセキュリティ分野でも、膨大な需要が発生しつつある。企業規模が大きくなるほど手動でセキュリティを管理するのが難しくなる。その結果、入退管理や時間、出退勤システムなどの電子セキュリティシステムへの需要が急速に拡大し、銀行や金融、保険サービスのほか公共部門や製造業で、全社的な管理のためこれらのシステムが導入されている。

現時点で世界最大の生体認証案件で、鳴り物入りでスタートしたアードハールUIDプロジェクトは、全体で約33億米ドルの規模と推定される。この案件は2010年から3年間で10万人の新規雇用と最大12億ドル相当のビジネス機会を創出する見込みだ。2012~2013年の予算として、インド政府は前年比47%増の約3億2,000万ドルを計上している。ムンバイ警察副署長で犯罪課に所属するアムバダス・ポテ氏は、セキュリティ用コストは支出でなく、一種の投資と考えられるようになったため、今後さらに成長率が高まる可能性があると見ている。

インドのセキュリティ市場は現在、映像監視機器と電子入退管理、ITセキュリティと個人セキュリ

▲インドの市街地監視事業は、今後5年間同国で最も成長率の高い分野と予測。



▲ ジコム・エレクトロニック・セキュリティ・ソリューションズ社常務取締役ブラモウド・ラオ氏



▲ スバルシュ社常務取締役サンジェーブ・セーガル氏



DynaGuard™ Tシリーズ

プラグ&プレイ・多機能NVR



会社概要

DYNACOLOR JAPAN株式会社は2006年6月に台湾DYNACOLOR INCの日本法人として設立され、同社製品の日本市場拡大を担っている。DYNACOLOR INCは1991年に設立されAOI(光学検査装置)を手始めに、その卓越したイメージプロセッシングの技術を活用し、CCTVの世界へ参入した。独自のマーケティング手法で市場の要求する製品を先行開発し、タイムリーに新製品を市場投入することで急速に市場シェアを拡大している。開発・設計・製造・販売を一貫して自社で実施する事で高性能、高品質、短納期、低価格を実現している。

DYNACOLOR
always watching

**DYNACOLOR
JAPAN**

〒102-0093
東京都千代田区
平河町1-1-1
平河町コート202
TEL 03-3265-0037
FAX 03-3265-0038
www.dynacolor.co.jp
info@dynacolor.co.jp

製品概要

Network DynaGuard™ Tシリーズは、簡単操作NVRで、1080Pリアルタイム録画、デュアルストリーミング、フルHDディスプレイをサポートします。加えて、Tシリーズ Pro NVRは、PoEハブを内蔵し、IPカメラをプラグ&プレイ自動接続します。学校やコンビニ、ガソリンスタンドなど地域社会に密着した小規模から中規模の監視マーケットを対象にした製品です。

TシリーズNVRは、ローカルディスプレイ出力ポートで、追加オプションなしでフルHDのクリスタルクリアな映像をローカルモニターに映し出します。また、Tシリーズ Pro NVRは、IPカメラのデュアルストリーミング機能と内蔵PoEハブで、ネットワーク帯域を心配することなく、カメラの電源供給、ケーブル配線、その他の付帯設備などの設置経費を抑えたいシステムインテグレーターにとって、パーフェクトな録画装置です。Tシリーズ Pro NVRは、プラグ&プレイ機能により、ネットワークやユーザー名、パスワード、その他複雑な設定いらずで、簡単にIPカメラの接続ができます。

特長

- ① 組み込みLinux
- ② フルHD ローカルディスプレイ出力
- ③ 4つのIPチャンネル
- ④ H.264 / MJPEG録画・再生
- ⑤ 4Ch PoEハブ (Proモデル)
- ⑥ IPカメラの自動復旧 (Proモデル)
- ⑦ IPカメラのプラグ&プレイをサポート (Proモデル)
- ⑧ 音声記録
- ⑨ フリーバンドルDynaRemote™・DynaGuard™ CMS
- ⑩ iPhone、iPad、Androidスマートフォンアプリをサポート

主な仕様

モデル名	T40		T40 Pro	
システム				
映像出力 (HDMI / VGA)	1024 x 768、1280 x 1024、720p、1080p			
音声出力	RCAラインアウト x 1			
フォーマット	PCM, G.711			
録画 / 再生				
H.264またはMJPEG (IP録画)	NTSC	120pps @ 1080P、720P、VGA (カメラによる)		
	PAL	100pps @ 1080P、720P、VGA (カメラによる)		
H.264またはMJPEG (IP再生)	NTSC	60pps @ 1080P、120pps @ 720P、VGA (カメラによる)		
	PAL	50pps @ 1080P、100pps @ 720P、VGA (カメラによる)		
ネットワークと通信				
ネットワークポート (アップリンク)	RJ-45 x 1, 10/100/1000 Mbps			
ネットワークポート	-	RJ-45 PoE付 x 4, 10 / 100 Mbps		
イーサネット	-	IEEE 802.3		
一般				
寸法	300 (W) x 55 (H) x 180 (D) mm			
質量	1.5 kg		2 kg	
温度	0° C ~ 40° C			
電源供給	AC 100~240V, 12V / 5A, 60Wアダプター		AC 100~240V, 48V / 1.87A, 90Wアダプター	



活発化するALPR/LPRの商業利用

自動ナンバープレート認識 (Automatic License Plate Recognition、ALPR/LPR) は、様々な用途で有効性が実証されている急成長中の技術だ。IMSリサーチ社によると、2008年のALPR/LPR世界市場の規模は、推定1億1,900万米ドルだった。2012年末の時点では3億5,040万ドルに拡大し、成長率は対前年比6.9%になっている。本稿では、進化し成長を続けるALPR/LPR市場の未来を探り、この技術が様々な専門市場や地域でどのように利用されているかを検証した。

ALPR/LPR業界が成長する上で重要なことは、市場の受け入れ態勢だ。「ほんの数年前まではこの技術を売り込むために、実際の動作を見てもらわなければならなかった。紛れもなく存続可能な製品であることを人々が自分の目で確かめる必要があった」とInex/Zamir社社長ジム・ケネディ氏は語る。「ところが今、それと同じレベルの証拠を示す

必要は、ほとんどの市場でない。ALPR/LPRが実績ある技術だということは、既に多くの市場で了解済みだ。

ALPR/LPR技術は成熟するにつれ、より日常的な存在になりつつある。アルゴリズムが一層インテリジェント化すると同時に、カメラの技術がALPR/LPR技術に近付いているとSeeTec社は指摘する。多くの事業体にとり製品が手に届

きやすくなり、瞬時に正確なデータを収集することが可能になった。

市場が成長し、ALPR/LPRは日常化しつつある。「何社かは分からないが、2013年にこの市場の低価格帯に新規参入企業が登場するだろう」とケネディ氏は言う。



クラウドにも対応

クラウドを利用したALPR/LPRシステムが発表され、多くの企業がこの技術の導入に踏み切ると予測される。「ユーザ側で何も保管する必要がなく、映像録画用のハードウェアを維持する必要もない。利用料金を支払うだけで、保証付きの成果が得られる。予定外の経費が発生することもほとんどない。ナンバープレート認識サービスをクラウドで提供すれば、ソリューション価格が下がり、全体的に広範な普及が促進される」とアクソンソフト社アジア太平洋地域担当取締役ドゥライラジ・ギレラジ氏は語る。

ジェネテック社は2012年後半、ALPR/LPRを含む製品ラインをクラウド対応にすると発表した。2013年前半から同社初のクラウドサービス提供を開



▲ ALPR/LPR技術は成熟するにつれ、より日常的な存在になりつつある。

始する計画である。同社はマイクロソフト社と協力し、Microsoft Windows Azureクラウド・コンピューティング・プラットフォーム上のサービスとして、信頼性の高いホステッド・セキュリティ・ソリューションを開発中だ。エンドユーザの立場からすると、使いやすさやTCO(総所有コスト)の削減といった利点がある。つまり、クラウドサービスは全体的なコストの低下を意味し、中小企業でもこの技術に手が届きやすくなる。

「クラウド技術により、当社のIPセキュリティ・ソリューションの新たな配信プラットフォームが実現される。コスト、資産の安全性、信頼性、そして最も重要なリソースの観点から、メリットが非常に大きい」とジェネテック社アジア太平洋地域担当常務取締役チャールズ・カズンズ氏は語る。

成長への課題

この業界はハイペースで成長中とはいえ、課題も残されている。米国を例に

とると、州によりナンバープレートの形式や字体は千差万別である。さらに、中東諸国のナンバープレートにはアラビア文字が使われているため、アルゴリズムがいったん複雑になる。技術を改良して、大多数のプレートに対応可能とはいえ、アラビア語のナンバープレートへの応用は依然として難しいとボッシュ・セキュリティ・システムズ社映像システム部門製品マーケティング責任者アーノルド・ラネス氏は言う。「アラビア語には草書体の文字があるため、認識はいったん複雑になる」。

現在、最新のALPR/LPRシステムの中には最大99%の精度を謳っているものがある。しかし、認識精度はまだ不安定であり、ALPR/LPR機器が必ずしも名目通りの精度を達成するとは限らない。ハイキビジョン社生産責任者ウニグ・ジャン氏によると、これらの機器が99%の認識精度を達成するのは、定期的な品質点検が行われて初めて可能になる。

技術的ブレイクスルー

1979年に英国で試作システムが発表されて以来、この技術は大きな発展を遂げた。「人目に付かない地味な技術だが、実体のある定量化が可能な結果を出す。出入口ゲートの自動的な開閉から犯罪者の捜索まで、この技術は様々な分野で進歩し有用性を発揮している」とカズンズ氏は語る。

一部のALPR/LPRシステムは「車種など、ナンバ以外の情報も同じシステムで提供することが可能だ。従来、このような機能は映像解析がなければ不可能だった」とハイテック・ソリューションズ(HTS)社マーケティング&事業開発担当副社長メタ・ロテンバーク氏は語る。さらに、ALPR/LPRシステムにデジタルカメラを搭載することで「今までよりはるかに広い視野が得られ、1車線あたりのカメラ台数を減らすことが可能になる」とケネディ氏は言う。1台のカメラで複数台のカメラの役目を果たすだけでなく、「このようなカメラだけでなく、より大容量の画像を処理できるコンピュータも登場している。この2つの進歩により、効率的なシステムを非常にシンプルな形で、幾つかの市場向けに提供できるようになった」とケネディ氏は説明する。



▲ 警察関連機関では、業務簡易化と収益増加の手段として、ALPR/LPR技術を利用している。

個別市場

経済情勢の悪化と予算縮小を契機に、多くのサプライヤが営業戦略の多角化に乗り出し、新たな個別市場の開拓に努めている。「予算の縮小に伴い、事業撤退を余儀なくされた供給会社も幾つかある」とケネディ氏は言う。供給会社は地方自治体の要求に対応する代わりに、投資収益率を実現する新しいアプリケーションや駐車時間管理、物流などの新たな個別市場に重点を置くようになった。

ALPR/LPRとえば、以前は安全対

策という印象だったが、現在、この技術は収益を生み出し、業務を簡易化する手段と見なされるようになってきている。民間企業では、ALPR/LPR技術の採用により効率性がアップするケースが多い。「門扉制御や在庫管理や駐車場管理など、どんな用途でもLPRは定量化可能な資金回収につながる重要な投資項目になっている」とカズンズ氏は言う。

官公庁: 交通監視

地方自治体は世界中どこでも国家基盤の整備に努めているため、官公庁部門は重要なエンドユーザだ。「交通安全



▲ Inex/Zamir社ジム・ケネディ氏



▲ アクソンソフト社
アジア太平洋地域担当取締役
ドゥライラジ・ギレラジ氏



▲ ジェネテック社アジア太平洋地域
担当常務取締役
チャールズ・カズンズ氏



▲ ボッシュ・セキュリティ・システムズ社映像システム部門製品マーケティング責任者アーノルド・ラネス氏

システムはかなり一般的だ。官公庁レベルの需要は、どちらかといえば増加傾向にあり、減少してはいない」とギレラジ氏は語る。サプライヤー各社が他の専門市場の開拓に努めていても、官公庁部門は変わらず堅調である。

官公庁部門の主な成長要因として、「交通管理、安全プログラムが活発な動きを見せている」とギレラジ氏は言う。民間部門に関しては「経済的に採算の取れる事業が成長要因だ。一般にナンバープレート認識を導入することで、車両の流れの監視と維持に必要な経費を長期的かつ反復的に削減できるような事業だ」。

交通監視のチェックポイントでALPR/LPR技術を採用するケースが多い。スペインとオランダでは、速度違反監視に平均速度カメラが使用されている。このALPR/LPRシステムを使用すると、ナンバープレートがカメラで捕捉されるたびに、2台のカメラ間の経過時間を計算するためレーダは不要だ。平均速度が制限速度を10%以上超過した場合、システムにより自動的に違反チケットを発行する。高速道路にALPR/LPRを導入すれば、速度違反切符を切る担当者の人件費を削減するだけでなく、長い距離にわたり速度制限を実施し、政府収益を増やすことが可能になる。

警察関連機関

政府予算が数年前と比べて縮小しているにもかかわらず、「LPRが犯罪取り締まりの重要なツールになったおかげで、この市場は依然として成長しつつある」とカズンズ氏は言う。警察関連機関では、業務を簡素化すると同時に収益を増やす手段として、ALPR/LPR技術を利用している。ALPR/LPRシステムは1分あたり最大3,000枚のナンバープレートを読み取り、車両データベースを照合して、登録の失

効や免許取り消し、逮捕令状の出された凶悪犯などに該当する運転者を発見し、警察官に通報する。その結果、警察では違反切符数と逮捕件数、そして収益が急上昇している。

駐車時間管理

駐車時間管理は、投資収益率が非常に高いため、他の多くのアプリケーションを上回り、現在最も成長率の高い個別市場の1つになっている。EMEA(欧州、中東、アフリカ地域)ではALPR/LPRの売上が2011年にやや低下したが、駐車場分野に限っては4.1%の増加を記録した。時間を超過して駐車していた車両を特定し、課金することで、この技術は駐車場の収益増に貢献する。同時に、駐車スペースを新しい客向けに解放し、小売業の売り上げにも貢献する。

2012年にジェネテック社が発表した最新の統合型セキュリティ・プラットフォームは、ALPR/LPRと映像監視と入退管理を1つの使いやすいプラットフォームに統合したものだ。このプラットフォームでは、エンドユーザが映像ストリームをリアルタイムで表示することができるだけでなく、カメラの制御、入退管理システムとALPR/LPRシステムの各種設定、Webブラウザを利用した報告も可能だ。「この市場の要望は、単なるナンバープレートの読み取りだけではなく、駐車場向けに開発されたソフトウェアとLPRの組み合わせにある。駐車場管理は、固有の意味合いを持った独自の分野である。ほとんどの運転者が到着した時点で駐車スペースがあるのを当然と考えるように、その点が見落とされがちである」とカズンズ氏は言う。

駐車場管理の効率化のため、サプライヤ各社はALPR/LPR技術に全面的に依

存したチケットレス駐車に活路を見出そうとしている。「チケットを使わず、LPRが駐車管理システムとして機能するシステムだ。その結果、完全にシームレスで快適な利用を実現する、整然とした管理システムが成立する」とセンサ・ダイナミック社MDニック・パーカ氏は語る。チケットレス駐車の出現により、印刷したチケットは時代遅れになり、チケットの紛失や、出口レーンでの長蛇の列といった問題を解消する。

駐車時間管理業界は全体として、エンドユーザに機器を販売するだけという、今までとは異なるビジネスモデルに進化した。別の方向性として、供給会社が大規模小売店と交渉し、収益から一定の割合を受け取る条件でシステムを無償で提供することも行われている。この歩合制モデルは、最初は技術に対して半信半疑だったり、導入の初期費用が足りない小売店から歓迎されている。

物流

多くの業界専門家が指摘するように、物流業界においてもALPR/LPR技術の需要は大きい。物流会社の監視システムにALPR/LPR技術を統合すれば、車両が所在不明になるのを防ぎ、一定のルールを厳守させることが可能になる。「荷降ろしや洗車、乾燥や積み込みなど、車両が必ず停車すべきいくつかの場所がある。この工程を監視して、車両が所在不明にならないようにするとともに、ルールを遵守して貨物の破損や紛失を防ぐ必要がある」とギレラジ氏は言う。

地域

アジア

アジアでは自己完結的なソリューションが求められる傾向があるとカズンズ氏は言う。機器を永続的に設置するに

は適さない場所や、警官が常駐しない場所で、ALPR/LPRが導入される場合がある。自己完結的なソリューションであれば、定期的にある場所から別の場所に技術を移転することが簡単にできる。例えばGenetec製カメラは、携帯型で情報収集と処理能力を備えているため、エンドユーザにとり非常に使い勝手が良い。

アジア市場の成長が有望視される理由は、重要な経済的要因として「アジアの主要都市で自動車が増え間なく増加し続けているからだ」とカズンズ氏は言う。

中国では、より高度なセキュリティの需要を主な要因として、ALPR/LPR業界が例年、安定した成長率を示している。この業界の最大の顧客は依然として官公庁である。地方自治体を除くと、地域共同体や大規模小売企業、ホテルなどの個別市場でALPR/LPRの潜在的な成長力が大きいとジャン氏は言う。さらに同氏

は、2013年末までにALPR/LPR業界でHD(高解像度)が主流になると予測している。

自動車は犯罪に使われるケースが多いため、逮捕につながるALPR/LPRカメラの導入を韓国政府が希望していた。韓国政府は警察と地方組織の意見を取り入れた上で、地域監視プロジェクトを開始した。例えば、韓国南部ウルサンでは、2012年に70台のアリコントビジョン製のメガピクセルIPカメラを設置した。1台のカメラが2車線を同時に監視できるので、システムの認識能力を犠牲にすることなく、60%の費用節約を達成している。

欧州

不況と公共予算削減への対策として、ALPR/LPR業界の供給各社は、市場での重点調整を図った。英国では供給各社がこの数年の景気後退に悩んだ結果、警察から駐車場管理に重心を移している。

この技術は投資収益率に貢献する場

合が多いため、政府部門は引き続き業界の大口顧客である。スペインやオランダなどでは人件費を削減するため、人間の介在なしで自動的に違反切符を送信するALPR/LPRシステムを導入している。一方ラネス氏によると、英国とオランダ、フランスとスペイン、そしてスカンジナビア諸国では、増収を図るため市営料金所でALPR/LPRの導入が始まりつつある。

米国

正確な数字はまだ明らかではないが、米国50州の法執行当局は、全てこの技術を採用済みである。この技術は全米に普及しているが、ALPR/LPRの使用を規制する法律があるのはニューハンプシャー州とメイン州の2つだけである。ニューハンプシャー州では、政府がこの技術で監視できるのは重要な社会設備に限定している。メイン州では、無関係な市民の追跡を防ぐため、警察は21日後にデータを削除しなければならない。



▲ 駐車時間管理は投資収益率が非常に高く、現在最も成長率の高い個別市場の1つだ。

国土安全保障省や司法省や運輸省などの機関が、ALPR/LPRシステムの導入に何百万ドルもの予算を計上している。麻薬取締局も不法入国や麻薬密売、テロを撲滅する取り組みの一環として、全米の主要な高速道路にALPR/LPRを導入する計画である。国土安全保障省は、米国に到着する全ての自動車を記録している。麻薬取締局はこの技術をアリゾナ州とカリフォルニア州、テキサス州とニューメキシコ州に導入したことを認め、その他の州にも導入する計画であると発表している。

論争

アプリケーションの実用性や実証済みの精度とはうらはらに、取得された情報のプライバシーに関連して様々な問題が

ある。一般市民のプライバシー問題に関しては、多くの国で何の規制もないのが現状である。この技術の悪用により普通の人々が追跡されるような事態が起こるので

はないかという懸念が表明され、活動家の注意を引いている。例えば米国自由人権協会などの団体が、一般市民の自由やプライバシー権に対する潜在的な脅威について問題提起している。

技術が浸透し、供給会社数が増えるにつれ、ALPR/LPRは引き続き新しい市



▲ ハイキビジョン社製品責任者
ウینگ・ジャン氏



▲ センサ・ダイナミック社
常務取締役ニック・パーカ氏

場を開拓するだろう。ALPR/LPRが導入されて間もないころは、この技術でガレージの扉が開くような日が来るとは、業界の専門家でも確実な予測ができなかった。



自在に選べる、 堅固な統合セキュリティシステム

実績豊富なオムニキャスト・ビデオ監視システムを搭載したSecurity Centerから始めましょう。入退室管理、侵入検知、資産監視、ビル管理などのビジネスシステムが次の展開となります。すべてのシステムと設備でモニター、アラーム管理、レポートを統合します。進化する統合のかたちをご覧ください。

Security Show 2013に出展します。小間番号SS3208

ビデオ監視システム | 入退室管理システム | ナンバープレート認識システム

革新的ソリューション



指静脈認証機能付き鍵管理BOXの将来性

1. 鍵管理BOXとは

建屋や倉庫、部屋などへの入退時にドアを経由するが基本的には鍵が付いている。入退室管理する時は、そのドアに電気錠を付けICカードや生体認証により通行を管理する。しかし、数が多くコストがかかることや、電気錠設置が物理的にできない場合などから、鍵そのものを管理するという発想が生まれた。この考えに基づいたのが鍵管理BOXで、下記のような特徴がある。

- (1) ユーザごとに使用できる鍵を定義できる。
- (2) ユーザ認証に指静脈認証機能を利用し、手ぶらで鍵管理ができる。
- (3) 鍵を戻すトレイはRFIDが検知し、所定のトレイが自動でフィードする。
- (4) 接続した管理パソコンで鍵の使用履歴を確認できる。

2. 鍵管理BOXの製品群

では鍵管理BOXにはどのようなものがあるのか、フィットデザインシステムが扱っている鍵管理BOXには、1ド

ア2フックタイプ、3ドア3フックタイプ、シリンダ錠差し込みタイプ、ボックストレー収納型タイプが揃っており、用途に応じた選択が可能だ。

3. 将来的に期待される利用分野

フィットデザインシステムの鍵管理BOXは、既に国家機関への導入実績があり、鍵を返却しないと退室できないシステムも法務関係施設に導入済みだ。鍵管理BOXの導入を今後重視すべき分野をいくつか挙げる。

(1) 企業や教育機関での機密保持

企業のVIPルームでは、極秘扱いの重要書類を施錠できる抽斗や書庫等に格納し、その鍵を指静脈認証によるBOXに保管する。

大学・高校の研究室は、学生が気軽に出入りできるオープンな環境の一方で、室内には研究資料や試験問題案など開示すべきでないものがある。それらを保管する抽斗や書庫の鍵管理に使う。

(2) 交通機関や輸送企業でのキー管理

飲酒運転に対する法律により、公共交通機関では運転前にアルコール

検知試験が法的に義務付けられている。システムは、本人確認を運転免許証と指静脈認証で実施し、アルコール検知試験を通過した者のみが運転できるという仕組みだ。

(3) 医療現場における活用

医療現場では、様々なセキュリティ施策が必要な場面がある。

- ア.1 電子カルテの管理
- ア.2 入院患者の貴重品の管理
- ア.3 劇薬指定薬物の管理

(4) トレイ方式の活用例

フィットデザインシステムの鍵管理BOXはトレイ方式を採用しているため、鍵に限らずトレイに収まる物であれば指静脈認証を利用して管理することができる。

- ① 機密性の高いデータの入ったUSBメモリやSDカードの保管
- ② 来訪者が所有するカメラ付き携帯電話の一時保管ロッカー
- ③ 在宅介護サービス提供会社が、介護対象者の住居用鍵の管理
- ④ 駐車場に駐車する車両キーの保管





指静脈認証開発10年の実績

フィットデザインシステムの指静脈認証鍵管理ボックス



安 価

1:N 高速認証

すぐれた環境特性

・入退室管理システムと連動できます。(FDV-KL、KU、KWシリーズ)
鍵を返却しないと退室ができません。

第21回 セキュリティ・安全管理総合展 東3ホール 出展ブースNo.
SECURITY SHOW 2013 SS3806
3月5日(火)~8日(金) 東京ビッグサイト

株式会社 フィットデザインシステム
Tel.04(2951)5166 <http://www.fit-design.com>

次世代VMS必須の要件とはなんでしよう。

それは一人一人、一社一社とニーズは違っても、最終的には経営の根幹的プラットフォームの一つになり得る事です。そして極小規模から巨大なシステムまでシームレスに。

- メディアルーター、リダイレクターで数万カメラ、数千クライアント保証
- マルチベンダー ip カメラ、業界初 ONVIF Profile S 準拠
- スマートフォンカメラ機能「ドコかめ[®]」
- アクセスコントロール
- LPR (自動車ナンバー読取)
- IP-PBX (SIP) インターフォン
- 画像解析
- 侵入監視
- 資産管理
- 高度なSDK (ネイティブ.net から .net マクロまで) による各種システムとの統合をサポート。

それが Genetec 社 Security Center です。

ONVIF Profile S 準拠により、ONVIF で画像解析、音声、I/O をサポート。
Canon 社モデル VB-H41 で上記機能を利用可能。

あなたの欲しいがある。 www.javatel.co.jp ◆お問い合わせメール info@javatel.co.jp

Javatel

Video Intelligence

株式会社ジャバテル

本社 〒530-0041 大阪市北区天神橋2-北1-21 八千代ビル東館3F
TEL 06-6354-0100 FAX 06-6136-1155
支店 〒130-0011 東京都墨田区石原 1-41-4 TKビル3F
TEL 03-6658-8726 FAX 03-5637-7834

会社案内とご挨拶

ジャバテルは個人、企業、国家機関などの生命と財産を守る為の高度なセキュリティシステム、企業の品質、生産性の向上、利益を最大限、損失を最小限にする為のソリューションを提供しています。

世界No.1 東京スカイツリーの監視セキュリティにGENETEC社のOMNICASTが採用されました。700台弱のメガピクセル・カメラをシームレス統合した世界クラスのセキュリティを実現しています。

よくわかるIPネットワーク

株式会社ジャパテル 代表取締役 CEO 佐々木宏至

今回のテーマはモバイルソリューションに関してあれこれと書いてみる。

現在、ローエンドのDVR NVRからVMSまでがスマートフォンをサポートしている。実用性の面はともかく、場所と時間を選ばずモニタリングできる機能は可能性を秘めている。スマートフォンの性能向上は目覚ましくH.264フルHDをデコードできるレベルだ。インテル社のAtom CPUでもGPUに依存してやっ

と実現している。現在提供されている、スマートフォン対応は、そのほとんどがJPEGで映像を配信しているため、ネットワーク帯域の消費が激しい。ドコモは次世代のコーデックとしてH.265を視野に入れているとのことだ。

スマートフォンで必要とされるモバイルソリューションとは何か。「ライブを見る、録画を見る」などが挙げられるが、これで満足とはならないだろう。「個人がペットや赤ちゃんを見る、巡回警備で次のセクターの状況を確認して移動する」などで便利なのは確かだ。録画を見る機能は、実装実績がまだまだ少ないし、使い勝手が良いとは言えない。

スマートフォンのサポートで重要なのはプッシュ型のイベントアラーム通知能力と筆者は考えている。イベントアラームの通知で即座に状況確認することにおいて、スマートフォンは理想的なデバイスである。イベントアラームは、カメラの動体検知や各種センサ、画像解析を含め多様なアラームを管理できる。さらに、入退室管理のアラームもその対象

となる。当社が提供しているGSC モバイルではドアの状態、開閉制御もオーバーライドして実行できる。

スマートフォンは進化が激しく、その基本OSを背景にタブレット端末がデスクトップPCの領域にも進出してくるだろう。IT用途に限ればWindowsが中心だが、その勢力は今後数年で変化していくと思われる。特にローエンドの監視クラウドサービスのモニタリングでは、大きな勢力変化が起きる可能性を秘めている。Windows 8の動向にも注意が必要だ。

モバイルソリューションの本命

弊社が現在の登録を申請している「ドコかめ[®]」は、「どこでも監視カメラ」をコンセプトにしている。スマートフォンに搭載しているカメラは、従前のデジカメと比較して、レンズ以外では同等レベルに達しており、動画キャプチャ能力は秀逸だ。

このスマートフォンのカメラをモバイル監視カメラとして利用することで、従来想定していなかった分野で大きなインパクトを提供している。現在はiPhone やiPad、Android上で作動し、Wi-Fiや3G、4Gの通信回線を経由してGSC セキュリティ・センタに接続し、録画する。

現在、地方自治体からの引き合いが活発で、幾つかの地方自治体での採用が決定している。具体的には災害時の状況把握に利用する。特に動画を配信しながら電話網で会話ができる点で高い評価を得ている。

応用先は遠隔メンテナンスなど、これまで我々が気づけなかった用途に対して、IT系企業から高い評価を得ていることに驚いている。

モバイルソリューションの進化

まず、現在は映像をサーバに配信、録画し、これを複数のクライアントが参照できる仕様だ。今後の進化として以下のようなことを計画することが考えられる。

- 1) GPS連動やモバイルGPSの情報を、監視センタ側のマップにプロットする。
- 2) 現在はJPEGベースだが、H.264 H.265などに対応する。

このように監視カメラの世界もipの恩恵で進化している。地デジをはじめメガピクセルが、スマートフォンのように、いつでもどこでも手の中で利用できるようになってきた。それでも監視カメラ市場ではアナログが60%以上を占めているという現実が存在する。最近では今更ながら「それもあり」と考えている。顧客視点では関係ない話かもしれないと思い始めている。実は当社も最近アナログ製品を手掛け始めている。当社の扱っているDVRやハイブリッドNVRにGenetec プロトコルを実装し、OMNICASTやGSCで統合できるようになったからだ。いったん統合されると後はipシームレスで自在になる。

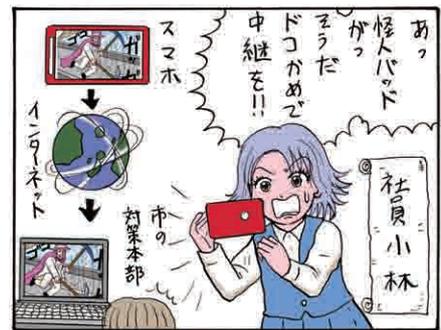
今回はネットワーク機器に関する面白い利用例を紹介する。



連載コミック 「ドコかめ」参上!



スマートフォンがいつでもどこでも監視カメラになる!
災害対策や遠隔保守点検、巡回警備と用途は無限大。



Copyright © 2013 Javatel inc.
無断転載厳禁 ドコかめ®

制作 神田 森莉

Genetec社Security Center mobileでご利用いただけます。
詳しくは <http://www.javatel.co.jp> で。

ジェネテック社 ピエール・ラーズCEOに聞く



問 2012年の貴社の業績について

昨年当社は世界全体で30%の成長を記録することができた。他社の平均成長率20%を上回っている。双方にどのような違いがあるかを検証すると、当社は高いプラットフォームを継続して開発し提供しているが、競合他社は独自の技術でなく、当社の機能を模倣しているケースもある。模倣や手本にされるということは評価されていることを示しているのかもしれない。

地域別に見ると、北米市場が最も実績を上げた。IMSリサーチ社の調査では、2012年のVMS北米市場で当社は最大のシェアを占めた。そのことよりも、北米市場で様々な複雑な案件にソリューションを提供することができたことを誇りに感じている。

欧州市場は、2008年以来厳しい市場環境が続いていたが、2012年には市場回復の兆しが見えてきた。事実、当社の売り上げも前年比増となった。

アジア太平洋市場は、基数がまだ小さいものの、成長率だけを見ると北米より

も高い。今後も成長を望むことができる市場だ。

問 貴社の日本市場に対する取り組みは？

日本市場で当社製品を供給し始めて9年になるが、当時から経済状態が良好でなかったにもかかわらず、実績はゆっくりだが着実に成長している。これは日本のパートナー企業が真摯に取り組んできた結果だ。

これまでVMSであるOmnicastを主体に展開して、特に大規模案件では競合他社の追随を許さなかったが、今後はOmnicastよりも広範にカバーできる統合プラットフォームであるSecurity Centerも加えて、最近引き合いが増えている大企業向けのソリューションを提供していく考えだ。つまり、シンプルな構成のソリューションにはOmnicast、高度なソリューションにはSecurity Centerで対応する。具体的な対応形態として2つの方法で提供する。1つはNVRやPCを使用したシステム、もう1つは最近発表したクラウドを活用したシステムだ。クラウドを活用したシステムについては、日本のセキュリティ業界はITに精通した企業ばかりではないので、必要な技術的な支援はジェネテック社が担当し、パートナー企業が設置施工を担当することになる。これにより導入までの工程を短縮することができる。

一方で、自社技術を有する日本企業がSecurity Centerと連携したソリューションの提供を申し入れてきている。こ

のようにSecurity Centerの存在が知られてきたことで、日本市場で展開を積極的に進める環境が整ったと言える。

問 VMS市場の展望は？

IPネットワークカメラの設置台数が増加し続けることに比例して、ユーザからの様々な要望も増加してきている。

それに応えているのが、映像データの確実な確保と様々なソリューションを可能にするビデオ・トリッキングだ。VPNネットワークでは、何らかの理由による帯域幅減少で、いつも数台のカメラ映像が数秒間から数10秒間欠落する。しかし、ビデオ・トリッキングは、この欠落した映像をエッジデバイスであるカメラから取り出し、確実に映像を記録する。転送は、イベントやスケジュールなど様々なフィルタを通して確実にアーカイブされる。

このビデオ・トリッキングの提供により、これまでとは異なったシステムやソリューションを提供することができる。

さらに、今や映像活用はセキュリティだけでなく、業務改善をはじめ様々な場面で使われ始めている。その点でもVMS市場は今後も拡大していくだろう。

問 貴社製品SECURITY CENTERが目指す方向は？

これまでに当社は、Security Centerを採用したソリューションを政府機関や重要施設またデータセンタ向けなどに提

供している。それは高い信頼性のあるアーキテクチャがあるからだ。さらに、このような大規模案件では現在、クラウド・ソリューションを提案している。このように、目指す方向の1つはクラウド・ソリューションだ。

実はSecurity Centerの開発設計は7年前からで、クラウド・ソリューションを想定して開始した。導入当初はクラウドを採用しない案件が、その後クラウドに移行しても快適に使用することができる。この点が、クラウド専用ソリューションを提供する他社との大きな違いだ。このことから、Security Centerは同じように時間をかけて開発してきた。これを例えると丹精込めて長時間調理した料理であり、他社のシステムはファーストフードのようだと説明することもできる。

問 アジア市場ではNVRへのプレ・インストールの要望が多いが、その対応は？

先程説明したように、当社は既に2つの供給方法を実行している。初めて導入する時の初期費用はNVRからの方が低く抑えることができる。そこで、NVRをはじめハードウェアにプレ・インストールして出荷している場合、主にOmincastを搭載している。ユーザの要望があれば、当初からSecurity Centerを搭載することもある。

そして将来、システムをSecurity Centerを採用するよう拡張する場合でも、最初に導入したOmincastの機能は継承して使うことができる。当社はエンジニアリング企業であり、互換性に対しては常に念頭に置いている。クラウド・ソリューションの環境においても同様に考えている。

問 VMSは既にPSIMを吸収できた環境にあると思うが？

これまでの数多くのインタビューでも説明してきたが、いかなるシステムでも、ソフトウェアで解決できることが最良で、機能向上や改良の時にソフトウェアをバージョンアップすれば済む。しかし、ハードウェアベースのシステムは異なる。以前、大企業は様々なシステムをカスタマイズして使っていた。しかし、機能を加える場合さらにカスタマイズを繰り返すことでシステムが複雑化し、最終的には限界に達してしまうことになった。

PSIMにおいてもこれと類似している、カスタマイズが必要となる。さらに、操作方法の変更や構成機器の交換などにも必要になることがある。そのため、メンテナンスやサポートが煩雑になる。

ここで好例として、ERP(企業全体を経営資源の有効活用の観点から統合的に管理し、経営の効率化を図るための手法・概念)パッケージを挙げて説明すると、ERPパッケージのうち必要なソフトウェアだけを使用することで、低コスト短時間で効率の良い統合環境を実現できるということだ。

問 ソフトウェア搭載カメラによるソリューションが話題になっているが、貴社の対応は？

何社かは、エッジデバイスであるネットワークカメラにCMSやコンパクト化したVMSなどを搭載し、SDカードに録画するソリューションを提供している。これは小規模案件で導入促進に効果的かもしれない。しかも、ソフトウェアを無償で提供している。

それに対して、当社は有償のOmincastとSecurity Centerを常に進化させる姿勢を維持する。先程紹介したビデオ・トリッキングやその他の映像技術への対応も進化の1つだ。ユーザはより完成度の高いソリューションを求めている。ここに大きな違いがある。

問 VCAに対する取り組みは？

当社は既にVCAの1つとしてLPR(ナンバープレート認識)ソフトウェアのAutoVuを提供しているが、それ以外のVCAについては、現在開発計画はない。それは、それぞれの用途に応じて開発したサードパーティの映像解析技術をSecurity Centerと統合する方が、より効果的なソリューションを提供することができると考えているからだ。当社は、日本のエンジニアリングと同様に高水準を追求するという考えで、ネットワークシステムの提供に特化していく。

問 Security Centerにおける次の戦略は？

今後の戦略として、64台までの案件に対応するソリューションの提供に注力する。これまでOmincastもSecurity Centerも大規模案件向けという印象を持たれているが、実は日本市場でも17台から64台程度までの規模でも、NVRに対抗できるだけの費用対効果がある。例えば、各拠点で数台のカメラ設置で拠点数が複数ある場合、総カメラ台数が数10台になる。これを個別で運営するよりも、システム統合するほうがTCO削減に繋がる。この点を日本市場で分かりやすく紹介するとともに大きくアピールしていく。



出展企業名	ブース番号	URL	出展製品							
			映像関係							
			カメラ	レンズ	モニター	レコーダ	映像管理ソフトウェア(VMS)	映像解析ソフトウェア(IVS)	車両認識システム(ALPR)	その他
R.O.D	SS3226	www.rodweb.co.jp	●		●	●				
アクシスコミュニケーションズ	SS3227	www.axis.com	●							
NSS	SS3501	www.cpcam.jp	●	●	●	●	●	●	●	
オプト	SS0322	www.optnagano.co.jp	●	●						
共栄工業	SS3415	www.kyoeiabloy.jp								
クリテム	SS3323	www.cretem.co.jp	●			●	●	●		
サンシステムサプライ	SS3215	www.sunss.co.jp/catalog/default.php	●	●		●	●			
システムエイ・ブイ	SS3503	www.systemav.co.jp	●			●			●	
Genetec	SS3208	www.genetec.com/jp					●		●	
スペース	SS3607	www.spacecom.co.jp		●						
住友電気工業	SS3231	www.sei.co.jp	●					●		
スリーディー	SS3433	www.3d-inc.co.jp	●	●	●	●	●		●	
セキュマークジャパン	SS3328	www.secumarkjp.com								
創朋	SS3326	www.soho-jp.com	●	●	●	●	●			
ソニービジネスソリューション	SS3233	sony.jp/snc/	●	●	●	●	●			
タムロン	SS3401	www.tamron.co.jp/cctv	●	●						
DYNACOLOR JAPAN	SS3333	www.dynacolor.co.jp	●			●	●			
中央電子	SS3703	www.cec.co.jp								
店舗プランニング	SS3603	www.tenpo.co.jp	●	●	●	●	●			
日本テクノ・ラボ	SS3408	www.ntl.co.jp					●			
ネットカムシステムズ	SS3209	www.netcam.co.jp	●			●	●	●	●	
ノア	SS3329	www.kknoa.co.jp	●		●	●	●			
ハイテクインター	SS3220	www.hytec.co.jp	●							
パナソニックシステムソリューションズジャパン	SS3701	panasonic.biz/security/	●			●	●	●		
パル技研	SS3324	www.palgiken.co.jp								
日立国際電気	SS3504	www.h-kokusai.com/tv/	●	●		●	●			
ヒビノ	SS3608	www.hibino.co.jp								
フィットデザインシステム	SS3806	www.fit-design.com								
藤商	SS3429	www.fujisho-jp.com	●	●		●				
富士フイルム	SS3322	fujifilm.jp/business/material/cctv/		●						
フリアーシステムズジャパン	SS3221	www.flir.jp	●				●	●		
朋栄	SS3511	www.for-a.co.jp	●		●	●				
Bosch Security Systems	SS3219	www.boschsecurity.jp	●							
マザーツール	SS3431	www.mothersool.co.jp	●	●	●	●				
三井物産エアロスペース	SS3303	mba-security.com	●				●	●		
MOBOTIX JAPAN	SS3207	www.mobotix-japan.net	●				●	●		
ユーピーアール	SS3403	www.upr-net.co.jp								
ユニバーサルコンピュータ研究所	SS3203	www.ucl.co.jp	●			●	●	●		
ユビテック	SS3309	www.ubitec.jp	●	●		●	●			
リズム時計工業	SS3427	www.rhythm.co.jp	●					●		
ルクレ	SS3232	www.arobaview.com	●				●	●	●	
ワイ・ビー・エス	SS3323	www.ybserve.co.jp	●							

小間番号 **SS3215**

exacqVision Edge

製品概要

IPカメラ上で動作する映像管理ソフトウェア

特徴

従来のNVR、DVR一切不要!カメラだけで録画システムを構築可能
録画データはカメラに実装するSDカードへ保存
SDHC、SDXC対応で最大128GBストレージへの保存が可能
無線ソリューション、短期利用、設置環境の難しい場所でも録画を実現
他のexacqVision製品との統合も容易に可能
簡単インストール。ユーザはカメラとの接続をPCでするだけ

主な仕様

4GB以上のSDカード(Class10推奨)
モニタリング用PC
サポートカメラ：Axis、IQinvision、ISD



サンシステムサプライ株式会社

〒167-0021 東京都杉並区井草3-32-2

TEL : 03-3397-5241 FAX : 03-3399-2245

URL : <http://www.sunss.co.jp> MAIL : info@sunss.co.jp

マルチベンダー対応 録画・監視ソフトウェア KxViewPro

KxViewPro32

製品概要

ネットワークカメラ最大32台同時録画が可能!

コンパクト化したリモコン画面で直感的操作!

16社250機種以上のカメラに対応!

特徴

KxViewProシリーズではPanasonic/AXIS/Canon/SONY/SANYO/Arecont Vision/MOBOTIX等のネットワークカメラの混在、またアナログカメラもエンコーダーを中継することでソフトに取り込むことが可能であり設置のカメラ台数、環境に応じてソフトを選べます。KxViewPro中・大規模システム対応録画ソフトで最大32台同時録画、320台登録が可能であり点在する拠点のカメラを遠隔コントロール出来、機能的でコンパクトなスタイルで直感的にコントロールが可能な操作画面となっております。

主な仕様

JPEGはもちろんの事メガピクセル等の大きな解像度でもH.264で録画が可能。

ライブ画面を任意の時間設定で切り替えることができる。

映像の中で見せたくない箇所を隠すことができる。

ライブ分割画面より、最大4箇所、画像の拡大ができる。

ソフトの終了や録画停止等の操作権限を設定できる。

カメラ設置場所のMAP画像から表示カメラの選択が可能。

カメラのモーション検知機能により明るさに限らず検知録画が可能。



株式会社ネットカムシステムズ

〒101-0021 東京都千代田区外神田3-10-3 プライム秋葉原ビル7階

TEL : 03-5207-8591 FAX : 03-5207-8592

URL : <http://www.netcam.co.jp/> MAIL : urano-t01@netcam.co.jp

小間番号 **SS3226**

NVR「VioStor-Pro+」シリーズ、モニタリングユニット、タイムサーバー VioStor-Pro+・VS-Eye・VS-LTS

製品概要

多くのエンド・ユーザーに選ばれ続けているネットワーク・ビデオ・レコーダー「VioStor」シリーズ製品に、HDMI出力対応の新たなラインナップが登場。最新ファームウェアではユーザーインターフェースも進化しています。またローカルで活躍するタイムサーバーなどの製品も仲間入りしました。

特徴

R.O.Dのブースでは、次世代NVR「VioStor-Pro+」によるIPネットワーク監視ソリューション展示を行います。現在の監視カメラシステムでは、高画質な映像を長期間保存することが求められています。しかし、映像が良くなればなるほどモニタリングや再生の際に機器に大きな負荷がかかることが課題の一つでした。常にNVRの歴史を創ってきたVioStorの最新モデル「VioStor-Pro+」は、そうした従来の課題を解決し、エンド・ユーザーに快適な監視環境を提供します。最新モデル「VioStor-Pro+」を使ったデモンストレーションを是非ご覧ください。



株式会社 R.O.D

<大阪本社>大阪市西区立売堀1-7-18 国際通信社ビル6階

TEL 06-6537-1233 FAX 06-6537-1377

<東京営業所>東京都港区芝5-32-8 青木ビル8階

TEL 03-5419-3354 FAX 03-5419-3359

【名古屋・福岡・宮崎・北海道】

URL : <http://www.rodweb.co.jp/> MAIL : info@rodweb.co.jp

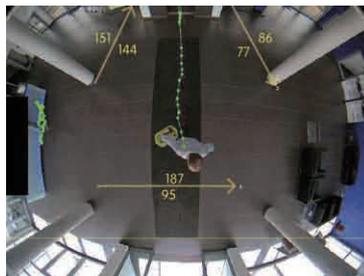
MOBOTIXネットワークカメラシステム

Hemispheric(半球全方位)シリーズ

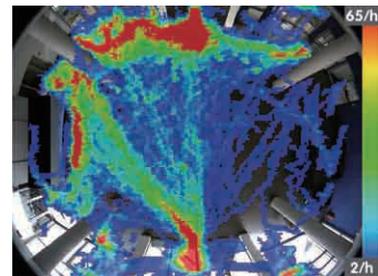
製品概要

Q24 360度全方位監視カメラ(天井設置時)

天井付、壁付可。ライブ、録画画像共、画像補正可能。4分割表示、パノラマ表示等
画像解析機能を標準搭載(人数カウント、動線密度解析)



人数カウント解析



動線密度解析

S14レンズ・映像センサー分離型2眼カメラ

2つのレンズ付センサーモジュールと本体基盤を分離

フレキシブルで目立たない設置

2眼の360度全方位映像(天井設置時)で、デイナイトカメラ仕様も可能

6つのレンズの組み合わせで、2つの異なる場所の映像を取得可能



M24-HEMI 屋外ハウジングケース付IP66対応カメラ

屋外設置で、180度パノラマ映像

-30℃～+60℃の環境下で、そのまま設置使用可

スタンドアロン録画のためのMicroSDスロット搭載

(標準4GB搭載、最大64GBまで拡張可能)



MOBOTIX JAPAN(株式会社K.J.フェロー)

〒231-0011 横浜市中区太田町6-85 RK Cube 4F

TEL : 045-227-6174 FAX : 045-227-6286

URL : www.mobotix-japan.net MAIL : cam-sales@mobotix.jp

小間番号 **SS3203**

録画データ保管システム

メディアライター

製品概要

監視カメラの録画装置から映像データを自動的に取り出し、CD/DVD/BDメディアに書き込みます。メディア表面には映像カメラ情報、日時情報、監視画像イメージが自動印刷されます。証拠映像の提出や長期保管に最適なシステムです。

主な仕様

録画装置から必要な映像データを全自動で取得
 CD/DVD/BDメディア表面に録画データや映像イメージを自動印字
 スケジュール指定で毎日定時の映像データ取得とメディアの自動作成
 エプソンディスクデュプリケータにより最大100枚まで自動装填
 Windows標準動画形式への変換機能の自動化
 再生にパソコンを必要としないビデオディスク形式への自動変換機能
 業界で実績のある多くの録画装置に対応
 書込指示はカメラと時間枠を選択するだけの簡単操作



株式会社ユニバーサルコンピュータ研究所

〒542-0086 大阪市中央区西心斎橋1-9-16 大京心斎橋第2ビル5F

TEL : 06-6251-7685 FAX : 06-6251-7686 URL : <http://www.ucl.co.jp/> MAIL : mediawriter@ucl.co.jp

小間番号 **SS3203**

高性能外周警備システム

SOLPAK3

製品概要

改正 SOLAS 条約発効(2004年)に伴う法律改正により、国際港湾施設における侵入者自動検知装置の設置が求められるようになりました。本パッケージは侵入者自動検知装置を実現するシステムです。さらに、港湾以外の一般的な外周警備にも適します。

主な仕様

港湾保安対策の基本である、フェンス監視・カメラ監視・音声警告・通報機能を実現
 パソコン画面特有の煩雑さを払拭し、監視員が本来の業務に専念できるユーザインタフェース
 主要機能：カメラ制御、センサ連動制御、音声制御、ローカルセンター構成制御、監視パターン制御、ネットワーク伝送制御、侵入者威嚇、機器異常監視、外部映像出力
 対象分野：港湾施設、空港施設、プラント、発電所、浄水施設、寺社仏閣、防衛施設、刑務所、鉄道施設、学校、データセンター、通信施設、ダム、橋梁、メガソーラー施設
 実績：港湾、空港を含め全国51サイトにおける約10年間の豊富な運用実績



株式会社ユニバーサルコンピュータ研究所

〒542-0086 大阪市中央区西心斎橋1-9-16 大京心斎橋第2ビル5F

TEL : 06-6251-7685 FAX : 06-6251-7686 URL : <http://www.ucl.co.jp/> MAIL : solpak@ucl.co.jp

第21回 セキュリティ・安全管理総合展

SECURITY SHOW 2013

同時開催

特別企画展 労働安全衛生EXPO



社会を守る

最強デイズイベント

防犯設備、災害対策、情報セキュリティ、労働安全・・・「安全・安心」なら俺たちにまかせろ!

3/5 火 ▶ 8 金

10:00 ~ 17:00 (最終日のみ16:30まで) www.securityshow.jp

東京ビッグサイト 東ホール

主催 日本経済新聞社
 後援 警察庁、(独)情報処理推進機構、日本商工会議所、
 全国商工会連合会、米国大使館商務部 (順不同)
 協力 テレビ東京、日経BP社 (順不同)

お問い合わせ ハローダイヤル 03-5777-8600 (1月から3月末までご案内)
 入場料 当日一般=1,500円(税込み)
 Webサイトの事前登録で入場無料
 同時開催展 JAPAN SHOP / 建築・建材展 / リテールテックJAPAN / NFC&Smart WORLD /
 ライティング・フェア / フランチャイズ・ショー

3月

SECURITY SHOW 2013

会期：2013年3月5日～8日
会場：東京ビッグサイト 東2・3ホール
主催：日本経済新聞社
URL：<http://www.shopbiz.jp/ss/>

リテールテックJAPAN 2013

会期：2013年3月5日～8日
会場：東京ビッグサイト 東1・2ホール
主催：日本経済新聞社
URL：<http://www.shopbiz.jp/rt/>

NFC & Smart WORLD 2013

会期：2013年3月5日～8日
会場：東京ビッグサイト 東2ホール
主催：日本経済新聞社
URL：<http://www.shopbiz.jp/nf/>

パーキング・ジャパン 2013

会期：2013年3月13日～15日
会場：東京ビッグサイト 西1・2ホール
主催：ジェイシーレゾナンス
URL：<http://www.parking-japan.com/>

4月

ISC West 2013

会期：2013年4月10日-4月12日
会場：サンズ国際会議センタ、
ラスヴェガス、米国
Email：inquiry@isc.reedexpo.com
URL：www.iscwest.com

Secutech International 2013

会期：2013年4月24日-4月26日
会場：台北世界貿易センタ南港展示館、
台北市、台湾
Email：komori@asj-corp.jp

URL：www.secutech.com

5月

RFIDソリューションEXPO

会期：2013年5月8日～10日
会場：東京ビッグサイト 東ホール、西ホール
主催：リードエグジビジョン ジャパン
URL：<http://www.ridex.jp/>

IFSEC International 2013

会期：2013年5月13日-5月16日
会場：国立展示センタ、バーミンガム、英国
Email：kristan.johnstone@ubm.com
URL：www.ifsec.co.uk

MOBOTIX JAPANパートナーカンファレンス

会期：2013年5月20日-22日
会場：横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ
主催：MOBOTIX JAPAN
URL：https://chicappa-mobotix.ssl-lollipop.jp/MxExpo2013_entry/mxexpo_entry.html

Indo Security Expo & Forum 2013

会期：2013年5月29日-5月31日
会場：ジャカルタ国際展示場、
ジャカルタ市、インドネシア
Email：info@indosecurity.com
URL：www.indosecurity.com

6月

Security Canada West 2013

会期：2013年6月12日
会場：リバー・ロック・カジノ・リゾート、
リッチモンド市、カナダ
Email：staff@canasa.org
URL：www.securitycanadaexpo.com

Electronic Security Expo 2013

会期：2013年6月24日-6月28日
会場：ナッシュビル国際会議センタ、
ナッシュビル市、米国
Email：nfranco@ae-ventures.com
URL：www.esxweb.com

7月

Secutech Thailand 2013

会期：2013年7月3日-7月5日
会場：バンコック国際貿易展示センタ、
バンコック市、タイ
Email：komori@asj-corp.jp
URL：www.secutechthailand.com

Security Expo 2013

会期：2013年7月24日-7月26日
会場：シドニー会議展示センタ、
シドニー、オーストラリア
Email：events@asial.com.au
URL：www.securityexpo.com.au

8月

Secutech Vietnam 2013

会期：2013年8月8日-8月10日
会場：サイゴン展示会議場センタ、
ホーチミン市、ベトナム
Email：komori@asj-corp.jp
URL：www.secutechvietnam.com

9月

GDSF JAPAN 2013

会期：2013年9月27日
会場：東京秋葉原UDXギャラリ NEXT
主催：a&s JAPAN
URL：<http://www.asj-corp.jp/gdsf2013.html>

2013年の東南アジアでの事業拡大は SECUTECHタイとSECUTECHベトナムで

東南アジアは最も急成長している経済地域で、世界的な経済不況とは無縁です。GDPはタイが7.5%、ベトナムが5.3%です。日本はタイとベトナム両国でトップの海外投資国で、日本企業は商機を獲得する上で優位性を持つことができます。
この機会をお見逃しなく！

タイ

- 東南アジア最大のセキュリティ市場で30%の年成長率を誇ります。
- 日本からの投資は120%増加しており、2012年7月までで108億ドルに達しています。
- 好況の市場は、工業地域、ビル、小売、社会基盤整備などです。

secutech

THAILAND

2013年7月3日～5日
バンコック国際貿易展示場(BITEC)
タイ バンコック市
www.secutechthailand.com



日本窓口:

ASJ合同会社 海外事業部門
TEL: 03-6206-0448
FAX: 03-6206-0452
E-MAIL: komori@asj-corp.jp

ベトナム

- 東南アジアで上位の成長国です。
- セキュリティ機器、消防、保安機器の95%は輸入品です。
- 2012年第一四半期の海外直接投資では、日本が250ドルで第1位です。
- 好況の市場は、工業団地、ホテルとカジノ、商業ビルです。

secutech

VIETNAM

2013年8月8日～10日
サイゴン展示会議場(SECC)
ベトナム ホーチミン市
www.secutechvietnam.com



交通管理システムに最適な赤外線サーマルカメラ

交通管理システム

交通管理システムの主たる目的は交通渋滞の回避だ。そのため、24時間365日休むことなく正確に動作する交通量や路上の監視システムが重要となる。こうしたシステムでは、車両や自転車、歩行者を正確に検出しなければならない。正確に交通量を検出しなければ、円滑な通行と安全を確保し、渋滞を回避することができないからだ。

CCTVカメラの問題点

これまで交通量や路上の監視システムでは、接地センサやCCTVカメラを採用している。接地センサの場合、舗装を剥がして設置工事を行なう必要がある。その点CCTVカメラの場合、大がかりな設置工事が不要なことから、多くのシステムで採用されている。

しかし、CCTVカメラには幾つかの問題がある。一つは、日光の照り返しや逆光、影や濡れた路面、雪や霧など様々な要因により撮影効率が低下する点だ。そしてもう一つは、夜間使用に不向きという点だ。照度不足で鮮明な映像確保が困難となりがちな夜間の道路監視では、不鮮明な画像により映像解析ソフトの混乱を招き、交通監視システムの誤作動につながる。つまり、CCTVカメラだけに頼ったシステムでは、交通事故が発見できない、あるいは警察や消防の到着が遅れる

という懸念がある。

赤外線サーマルカメラの導入

一方、赤外線サーマルカメラでは、気候条件や道路状況の変化による要因で鮮明な映像確保が困難になるといった懸念は無用だ。赤外線サーマルカメラは、色のコントラストではなく、サーモグラフィすなわち熱のコントラスト(温度差)に基づいて画像を作成するからだ。

●暗闇や煙、霧を見通す

赤外線サーマルカメラは、あらゆる物体が温度に応じて放出する赤外線領域の電磁波を検出する。記録した赤外線放射の強度に基づき、鮮明で高コントラストな画像を作成するため、照度の影響は受けない。そのため、赤外線サーマルカメラは、完全な暗闇でも煙や霧でも見通すことが可能だ。

●路上監視

路上監視システムは、交通事故の発生を警察や消防にいち早く報告し、正しい位置を知らせるため、交通量の多い道路やトンネルの多くに設置されている。一般道路はもちろん、照度が不足することが多いトンネルでの路上監視システムは、赤外線サーマルカメラが最適だ。さらに映像解析ソフトウェアとの連携でも、赤外線サーマルカメラは照度条件に左右されず、あらゆる照度、天候条件で高コントラストの画像を撮影できるため問題ない。

●優れた費用対効果

赤外線サーマルカメラは撮影可能距離が長く、設置台数が少なく済むため、ポールなどの付帯設備やその設置費用の削減にも有効だ。また、車両や自転車、歩行者の状況を正確に把握できるため、どこに設置しても最も円滑で安全な交通を確保できる。

フリーシステムズ製品の特長

世界の赤外線サーマルカメラ市場を牽引するフリーシステムズの赤外線サーマルカメラは、高解像度(640x480ピクセル)の非冷却型マイクロボロメータ検出素子を搭載している。また、堅牢設計のため定期メンテナンスが不要だ。その他に、広範囲のスキャンができるパンチルト台付きの赤外線サーマルカメラも用意している。交通管理用赤外線サーマルカメラシステムには、あらゆる条件で最適画像が撮影できるよう、可視光カメラ付属した製品も取りそろえている。

●簡単な設置と統合

さらに、フリーシステムズの赤外線サーマルカメラには、設置アームやケーブル、プロセッサなど一般的なハードウェアとの互換性があり、設置が簡単だ。また、標準アナログ映像出力を搭載している。多くのモデルはTCP/IPネットワークと接続でき、既存の映像解析システムとの統合も簡単である。

このように、フリーシステムズの赤外線サーマルカメラは、交通管理システムや路上監視システムの効率化に大きく貢献することができる。

詳細はwww.flir.comを参照。 



タムロン、メガピクセル対応 パノラマIPカメラを発売

タムロンは、魚眼レンズを搭載した全方位型カメラPanorama Camera 180-Viewシリーズの新製品として、メガピクセル対応パノラマIPカメラ300QV-PCMを発売した。

【主な特徴】

1. 水平画角180度の魚眼レンズを搭載
 - 魚眼レンズ搭載で、水平画角180度を実現。カメラ1台で死角のない映像を表示。
 - レンズメーカーとしての技術力と開発力によりF/1.7のレンズを搭載。優れた明るさによりカメラ照度を向上させ、既存の全方位型カメラ製品の中ではトップクラスの明るさを実現。
2. 高画質HD(1.2メガピクセル)出力
 - 捉えた画像をQuad VGA(1280x960)、歪み補正後はVGA(640x480)での出力が可能。さらに同時出力にも対応。
 - 3メガピクセルの高画素センサを搭載。ただし出力は1.2メガピクセルとなる。
3. 独自の画像処理技術の採用
 - 魚眼レンズで捉えた画像は、同社独自の画像処理技術によりカメラ内部で歪みを補正。専用ソフトウェアが不要で、Active-X対応WEBブラウザ上でカメラを制御することが可能。
 - 動体検知機能／パノラマ表示(2分割)／卓上モード／分割表示(4分割まで)に対応。
4. メカレス構造により高い信頼性を実現
 - 電子パン/チルト/ズームを採用したことで機械的構造が不要となり、高い信頼性を確保。結果、設置後のメンテナンスが不要。通常のスピード・ドームカメラと比較して耐久性が飛躍的に向上。
 - 防水規格IP66に対応。結果、軒下や雨風の吹き込む屋外通路等にも設置が可能。
5. 汎用性の高い画像圧縮方式3タイプに対応
 - H.264、MPEG-4、M-JPEGのマルチコーデック対応。静止画キャプチャ、動画記録が可能。再生は汎用ソフトウェアを使用予定。
6. 設置時に役立つ機能
 - 設置時の調整用にミニジャック端子があり、簡易的なアナログ映像出力により、その場で撮影画像を確認することができる。
 - 既存のDC12VだけでなくPoE電源にも対応し、多様なシステムで電源選択が可能。
7. その他の特徴
 - 音声入出力に対応し、内蔵しているマイクを使用して、画像だけでなく音声記録も可能。
 - カメラボディにアルミダイキャストを採用し、堅牢性を確保。
 - 落下防止ワイヤ、壁面取り付けアダプタ、丸カバーを用意。
 - スタイリッシュ＆コンパクトなデザイン。



【主な仕様】

レンズ仕様：1.09mm、F/1.7
 水平画角：180°
 レンズタイプ：魚眼レンズ
 撮像素子：1/4型プログレッシブ方式CMOS
 画像出力：元画像・QuadVGA(1280 x 960)、補正画像・VGA(640)かQVGA(320 x 240)選択、同時出力有効画素数：300万画素(出力は120万画素)
 パン/チルト/ズーム：電子パン、電子チルト、電子ズーム(x8)
 外形寸法：φ120mm
 画像圧縮方式：H.264、MPEG-4、M-JPEG
 その他機能：ディストーション補正、9プリセットおよびプリセットシーケンス、動体検知、パノラマ表示(2段階表示)、天井/側面/卓上モード、分割表示(4分割)

詳細は<http://www.tamron.co.jp/>



店舗プランニング、A4判サイズ HD-SDI規格4chDVRを新発売

店舗プランニングは、韓国WEBGATE社製HD-SDI規格4chフルHDのDVR、HDC400Mを新発売する。同製品は、WEBGATE社日本総代理店の店舗プランニングの要求に基づいて、日本市場向けに開発したもので、従来製品に対して体積で約1/4の小型化、価格面でも大幅なコストダウンを実現したA4判サイズ超小型DVR。

フルHDの高精細・高画質とA4サイズへの小型化および低価格の特長を生かして、設置場所に余裕の少ないコンビニエンスストアなどの小型店舗や多店舗展開飲食店、マンションや駐車場など、幅広い分野への販売展開を目指す。

【主な特長】

◆超小型A4サイズ

弊社従来DVR比 約1/4(体積比)の小型化を実現。

290(幅)×232(奥行)×65(高さ)mm

◆ハイファイビデオコーデックおよびWISEディスプレイエンジン

優れたビデオ品質を実現するために、放送分野で使われている高性能ビデオコーデックを採用。また、自社開発WISEディスプレイエンジンを搭載し、単画面および分割画面の画面で、鮮明で

自然な画像を作り出す。この技術により、水平解像度1200TV本を実現している。

◆大量データ保存

RAID技術をもった別売の外付けeSATAストレージを接続することで、DVRのストレージを最大16TBまで拡張が可能。

◆PCでの再生

DVR内のHDDは、PCから直接アクセスすることができ、USBまたはeSATAを使用したPC接続が可能。

同梱CMS(中央表示用ソフトウェア)は、再生・検索・バックアップなど全ての作業をすることができ、万一DVRが故障した場合でも、CMSを用いたデータの再生・バックアップを行うことにより、データの消失を防ぐことができる。

◆コマ送り再生

高性能コーデックとWISEディスプレイエンジンにより、DVRは、1コマずつのコマ送り再生と逆再生が可能。録画再生時の重要な瞬間映像の確認に有効。

◆パワフルCMS:コントロールセンタースタンダード版/プロ版/企業向け版

コントロールセンター・スタンダード版は、DVR付属で、パッケージに同梱。これは、最大1024台のDVR、2つのモニタの管理、またカメラ・チャンネルのグ

ループ化とユーザに特化した権限設定を行うことができる。さらに、コントロールセンター・プロ版や企業版は、スタンダード版の全機能を含み、大規模な中央制御システムに必要な多くの機能を提供。

【主な仕様】

- 映像入力: HD-SDI 4チャンネル
- 映像出力: HDMI×1
- 映像圧縮方式: H.264
- 録画解像度: 1080p / 720p
- フレーム数: 最大30fps@1080p / 最大60fps@720p
- 音声: 4入力(RCA)、1出力(HDMI)
- 記憶装置: SATA HDD・内蔵1台(標準2TB)、eSATA(外部、最大16TB)
- バックアップ: USB(2ポート)、ネットワーク
- CMS: 遠隔監視WebViewer ブラウザ・モニタリング機能、再生/バックアップ
- モバイル: モバイルウェブページ機能(iPhone/Android)
- 寸法: 290(幅)×232(奥行)×65(高さ)mm
- 重量: 2.5Kg(HDDを含まず)
- 電源、消費電力: DC12V/5A、30W以下
- 規格認証: KC、FCC、CE、RoHS、HD-cctv

【価格】

本体希望小売価格: 411,600円(税込)

詳細は<http://www.tenpo.co.jp/>



アクシスコミュニケーションズ、固定ドーム型カメラAXIS P3364-LV/-LVEを発売

アクシスコミュニケーションズは、動く被写体に合わせて赤外線LED照射を自動で調整する固定ドーム型ネットワークカメラAXIS P3364-LV/LVEを発売した。

同製品は、同社主力製品AXIS P33シリーズの最新モデルとしてリリースされ、光量の自動調整機能をもつ赤外線LED照射や光条件の厳しい環境でも鮮明な映像を提供できるLightfinder技術を搭載し、屋内・屋外用共に耐衝撃構造を採用している。

同製品に搭載している赤外線LED技術は、撮影範囲全体に赤外線を照射して広範囲を適正な露出で映し出す一方で、被写体がカメラに接近すると、その被写体に合わせて赤外線の光量を変更し、被写体が露出過多により白飛びするのを防ぐといった調整が自動で動作する。さらに、LED設置個数を3か所のみとしたため、少ない消費電力量で稼働するとともに、センサ周辺の温度上昇を抑え、ノイズが発生しにくい構造となっている。一般的な他社製品と比べても、製品寿命の長い特殊なLEDを使用しているため、より長期にわたる安定した稼働が期待できる。

同製品はまた、P33シリーズの標準機能を継承し、光条件に合わせて赤外線フィルターの作動と停止を自動で制御するデイナイト機能が搭載され、補助投光器用の電源を確保できない、などの環境下においても赤外線カメラとして鮮明な映像が得られるよう工夫されている。また、精密なピント合わせにより高画質を

もたらすPアイリスレンズ、microSDおよびmicroSDHCメモ리카ードによるカメラ映像と音声の録画および音声の入出力などの機能を持ち合わせている。

さらに、アクシスの映像分析モジュール用プラットフォームであるAXIS Camera Application Platformにも対応しており、人数計測やヒートマップ、侵入検知などのサードパーティ製アプリケーションをカメラにインストールして、映像を用いたインテリジェント・システムを構築することができる。



なお、P3364-LVは屋内仕様で耐衝撃構造、P3364-LVEは屋外仕様で耐衝撃構造とIP66およびNEMA4xの防水防塵性能を有している。

【主な特長】

- ・赤外線LED照射自動調整機能
- ・デイナイト機能による、赤外線フィルターの自動制御
- ・最小限のLEDによる、ノイズ発生と消費電力量の抑制
- ・製品寿命の長い特殊なLED
- ・Lightfinderテクノロジーを搭載
- ・最大解像度HDTV 720p/1.3メガピクセルの精細な映像
- ・Pアイリスレンズ搭載による画質の最適化
- ・H.264およびMotion JPEGによる映像圧縮
- ・音声入出力
- ・屋内外モデル共に耐衝撃構造
- ・屋外モデル(-LVE)はIP66およびNEMA4xの防水防塵性能
- ・Power over Ethernet(IEEE 802.3af)に対応し、ネットワークケーブル1本で給電・映像伝送
- ・AXIS Camera Application Platform対応のサードパーティ製アプリケーションが利用可能

【製品価格】(税別)

AXIS P3364-LV 12mm	126,000円
AXIS P3364-LVE 12mm	148,000円

【供給時期】

2013年2月

詳細は<http://www.axis.com/>



■ 屋外カメラ録画機 SCR1000

- ・メガピクセル高画質カメラに対応
- ・交換/取出し容易なリムーバブルHDD(1TB)採用
- ・専用ソフトによるPCでの検索/再生が可能
- ・瞬停/停電時での自動停止、自動復帰機能
- ・動作状況が一目でわかる動作表示灯
- ・GPSユニットによる時刻補正(オプション)



アツミ電気

URL : www.atsumi.co.jp

☎ : 053-428-4111

■ IRネットワークドームカメラ DH-IPC-HDBW3202

- 1/3インチ2メガピクセル・プログレッシブ・スキャンCMOS センサExmorを採用
- H.264とMJPEGのデュアルストリーム
- 1,080p (1,920×1,080)で25/30fps
- DWDR, デイ/ナイト(ICR), 2 DNR, オートアイリス, 自動ホワイトバランス, AGC, BLC
- 3~9mm/バリフォーカルレンズ
- 1/1アラーム入出力
- 赤外線LED最大距離 : 20m



Dahua/中国

Email : overseas@dahuatech.com

■ iCLASS® SEプラットフォーム

- ・SIOによる多層的なセキュリティを提供。
- ・各種iCLASS、Seos™、MIFARE®などをサポート。
- ・Seosを介したNFCスマートフォンなどフォームファクタとの相互運用。
- ・標準準拠OSDPIによる安全な双方向通信。
- ・NFCカードエミュレーションモバイルデバイスによるHID入退管理への移行を実現。
- ・インテリジェント電源管理で電源消費を最大75%削減。



HID Global/米国

☎ : 03 6435 5900

Email : thirano@hidglobal.com

■ 全方位カメラ HS-CP3602

- 5メガピクセルHD-CCTV
- SDI 出力/HDMI CVBSx4出力
- 360度と180度の全方位映像
- 仮想PTZと自動パン
- マルチスクリーン表示
- プライバシ・マスク
- 動体追尾
- マイク内蔵



Hi Sharp/台湾

Email : sales@hisharp.com.tw

■ セキュリティゲート スタンゲート

- ・2012年度グッドデザイン賞受賞
- ・静かで滑らかなオリジナルのフラップ動作
- ・データセンターなどで強固なセキュリティを構築するハイフラップ(1800mm)タイプ
- ・エントランスで建築空間と調和するミドルフラップ(1200mm)タイプ
- ・1通路の設置スペース1300mm(奥行き) × 1030mm(幅)の省スペース設計
- ・入退室管理システム、監視カメラとの連動で、より高度なセキュリティ構築可能



クマヒラ

URL : www.kumahira.co.jp

☎ : 03-3270-4388

■ スタンドアロンNVR NVR404C

- 携行可能な NVR
- マルチ・タッチスクリーンをサポート
- 最大24 Mbps の4チャンネル1,080Pリアルタイム NVR
- フル HD 1,920×1,080をHDMで出力
- 2.インチSATA HDDかSSDを1台サポート
- 3G携帯(iPhone, iPad, アンドロイド、ブラックベリー)対応
- USB経由でDVD/RWIに出力
- CMX software HD 3.6 をサポート



LILIN/台湾

Email : sale@meritlilin.com.tw

■ 赤外線サーモグラフィ装置 R300SR/R300SR-H/R300SR-S

- ・超解像撮影モードにより、熱画像の画素数を4倍に向上、空間分解能を約1.5倍に向上
- ・添付のPCソフトウェアにより、より鮮明な超解像処理可能
- ・熱画像パノラマ撮影モードの自動合成精度強化
- ・スクロールインジケータ採用
- ・温度範囲と温度分解能で選べる3種類のモデル
- ・オプションレンズの低価格化



日本アビオニクス

URL : www.avio.co.jp

☎ : 03-5436-1371

■ バリフォーカルレンズ M13VG850IR

- ・CSマウント、F/1.6レンズを搭載
- ・「3メガピクセル対応」の高い光学性能
- ・近赤外線撮影でも、メガピクセル画質を実現
- ・標準望遠域をカバーする8-50mm
- ・1/2.8型、1/2.7型対応で、センササイズの大きなカメラにも装着可能
- ・色収差低減により色ニジミのない描写を実現
- ・性能を最大限に発揮できる高精度・高品質な構造を実現
- ・メガピクセル画質をコンパクトサイズで実現



タムロン

URL : www.tamron.co.jp

☎ : 048-684-9129

iPad

11:08

100%

a&s International

a&s on iPad

Enjoy **a&s international+** Now!



Available on the iPad
App Store



読者の声

拘束場所での映像監視の必要性

映像監視システムをプライバシー侵害の急先鋒機器として非難する傾向が、一部のマスメディアが大々的に主張している。しかし、社会には命や安全を確保するために不可欠のシステムとして使用しなければならないことがある。その一例が、拘留所や刑務所での常時監視ではないだろうか。しかし、その場合でも旧来のアナログ監視システムでは、管制室で担当者が常時画面を見ていなければならない、正確な監視ができる保証がない。アラート機能を有するインテリジェント・システムが不可欠ではないか

(東京 システム構築)

共同住宅のセキュリティ

マンションで監視カメラとオートロックがあれば安全という神話は、犯罪防止という観点では既に崩壊しているようだ。例えば共連れ入退されてしまえば、オートロックの役割は激減する。さらに、監視カメラの映像においても、事後確認での活用であれば予防措置にはならない。マンション販売および設計担当企業は、セキュリティに対しては、もっと切実に考慮することを求めたい。また、玄関の施錠について、コピーできない鍵はないという前提で、生体認証を活用したシステムを導入することも重要だ。

(千葉 設置施工業)

万引防止とコスト負担

万引は小売業者にとって頭の痛い問題である。最近では若年層だけでなく、熟年層や老年層による万引が増加しているという。現段階では人的な対応すなわち万引監視員による対策しか普及していない。しかし、それでは限界があることも明白で、複数の人間が同時に犯行に及べば、監視員を増やすことしか対抗できないのが現状だ。コストと各店舗の設備投資の問題などで、RF-IDやICタグ導入が進まない。しかし、商品供給側が積極的に導入を推進すれば、RF-IDやICタグの単価が下がり、あとは小売業者の対応となるのではないか。

(千葉 小売業)

「読者の声」を募集しています。

本誌では、セキュリティに関する読者の皆様のご意見やご提案を募集しています。セキュリティ機器やシステムを供給している側、セキュリティ・システムを既に導入あるいは導入を予定している側、いずれの側からの応募をお待ちしています。ただし、特定企業や団体または個人に対する誹謗中傷または批判的な内容をご遠慮ください。

一例を挙げると、導入する場合の手順はどのように進めれば良いのか。導入前の事前説明についてはどこに相談すべきなのか。メーカーなのか販売会社なのか、システム構築企業や設置施工企業なのか、それともセキュリティ・コンサルタント企業なのか。セキュリティに関する疑問や意見また提案など、セキュリティ関連であれば詳細は問いません。掲載する場合は匿名扱いとしますので、個人情報が漏洩することはありません

なお、具体的な導入相談については、導入条件や環境についてできるだけ具体的な内容をご連絡ください。ご応募をお待ちしております。



a&s JAPAN編集部

TEL : 03-6206-0448

FAX : 03-6206-0452

MAIL : info@asj-corp.jp



ワンストップ・セキュリティ・ソリューションの玄関口

部品から解決までの完成品引渡し方式サービスを提供するセキュリティ・メーカ560社の情報が満載です。

- ・ 駐車や門扉そして錠前などの入退管理製品情報はアジア随一
- ・ 数多いCCTV掲載情報でソリューションをアップグレード
- ・ HD-SDIコーナーと実況映像は世界初
- ・ 注目特集は車両&ホームセキュリティと関連製品
- ・ 台湾、中国、韓国などのトップ100社からの情報
- ・ 3000点以上の新製品

会期 2013年4月24日～26日

会場 台湾 台北南港展示会場

www.secutech.com

まずSecutech APPをご一読！
展示会事前登録ができます。



下記QRコードでダウンロード

Available on the App Store Google play



NetCam 防犯・監視カメラをもっと便利に、もっと使いやすく

ネットワークカメラ録画ソフトウェアのメインストリーム

KxViewPro Ver 2.2 H.264 対応

※音声録音も可能！

多彩な機能とユーザーに優しいインターフェイス！録画監視ソフトの決定版！！



ラインナップ

- KxView Pro 9(カメラ9台同時録画対応でカメラ登録24台)
- KxView Pro 16(カメラ16台同時録画対応でカメラ登録160台)
- KxView Pro 32(カメラ32台同時録画対応でカメラ登録320台)
- KxView Pro 64(カメラ64台同時録画対応でカメラ登録640台)(特別注文)

特徴

- ・マルチベンダー対応で各メーカーのカメラを使い分け可能(別途、カメラ対応リスト表による)
- ・ネットワークカメラ映像を最大32ch同時録画が可能
- ・最大320台までのカメラ登録ができ、ライブ表示が可能
- ・操作が直感的に行うことができる簡単インターフェイス
- ・H.264対応済み(別途、H.264カメラ表による)

搭載機能

- ・録画機能：9台(KxViewPro9)、16台(KxViewPro16)、32台(KxViewPro32)
- ・再生機能：再生、巻き戻し、早送り(戻し)、コマ送り(戻し)。JPEG展開、AVI変換、モーション解析、デジタルズーム
- ・分割画面機能：全画面、4分割、5+1分割、6分割、9分割、8+2分割、12分割、16分割、20分割、24分割、64分割
- ・MAP表示機能：最大1250枚登録可能(BMPデータ別途必要)
- ・カメラツリー機能：4分割、9分割、16分割、20分割画面別での登録が可能
- ・PTZ機能：PTZカメラのパン・チルト・ズームがリモコン操作にて可能
- ・ルーペ機能：表示映像のデジタルズームが可能
- ・モーション録画機能：画像の変化を解析し、自動で録画開始が可能
- ・マスキング機能：見せたくない部分のマスキングが可能(JPEG録画に限る)
- ・障害発生警告機能：カメラ接続不良警告：カメラ故障、ネットワークエラー時に表示
- ・予備ドライブ機能：ハードディスクエラー時に別ドライブへの録画が可能
- ・トリガー受信機能：カメラ側機能のHTTP、TCPトリガーを受け取ることが可能
- ・ストリーム2機能：カメラのH.264(2)設定を録画・分割表示に利用可能
- ・ストリーム機能：カメラのH.264でのストリーム選択が可能
- ・ユーザー権限機能：最大20ユーザー作成、ユーザー毎に操作権限を設定可能

【開発・販売】

株式会社ネットカムシステムズ

- 本社・ショールーム
- 大阪支店

東京都千代田区外神田 3-10- プライム秋葉原ビル 7F TEL : 03-5207-8591
大阪市淀川区宮原 5-1-18 新大阪サンアールセンタービル 9F TEL : 06-4866-6431
URL : <http://www.netcam.co.jp/> E-mail : netcam@netcam.co.jp